

北海道造形教育連盟70周年記念誌

心つなぐ造形



北海道造形教育連盟



北海道造形教育連盟70周年記念誌

心つなぐ造形

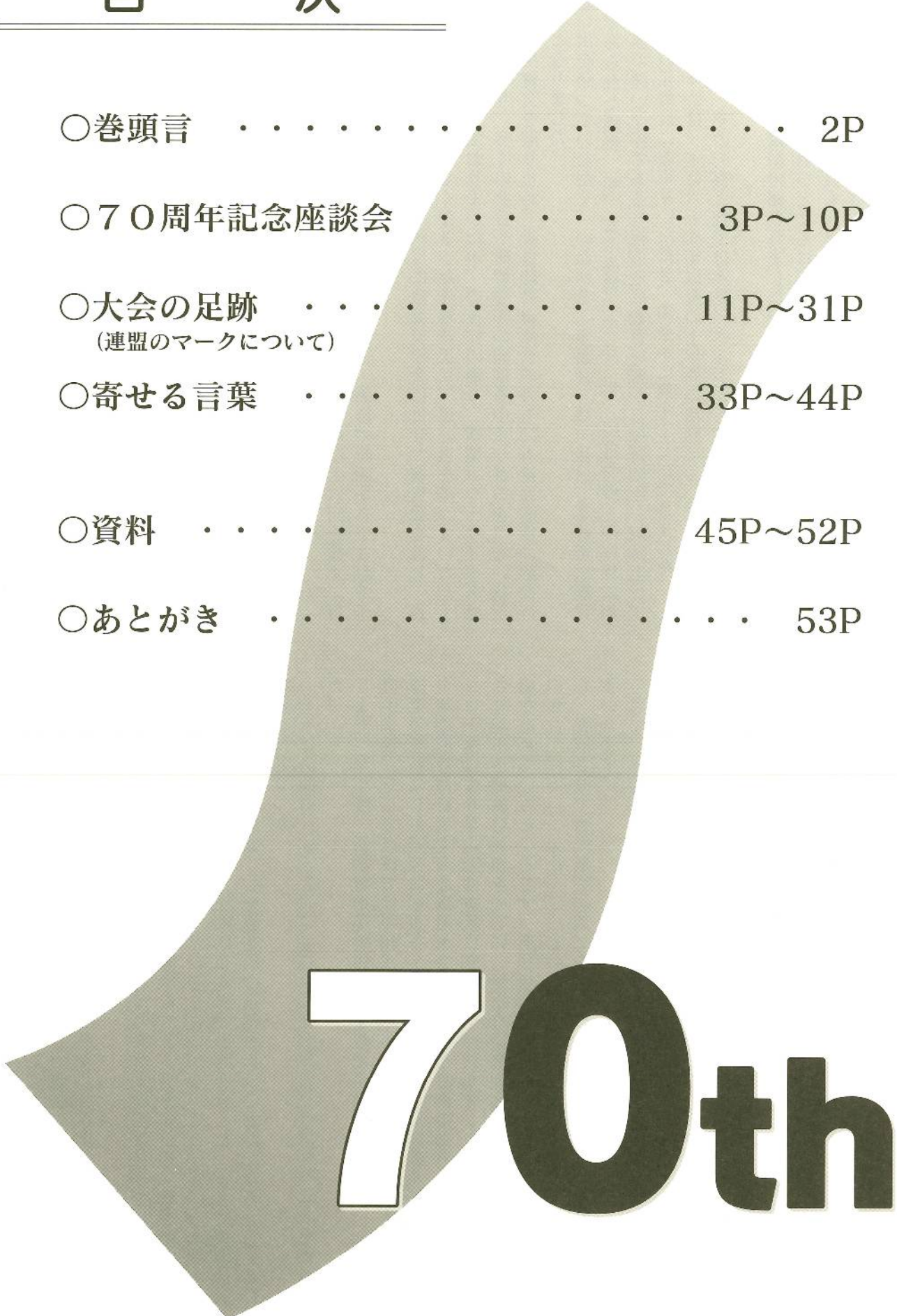


北海道造形教育連盟

2020.11 Ah

目 次

- 巻頭言 2P
- 70周年記念座談会 3P~10P
- 大会の足跡 11P~31P
(連盟のマークについて)
- 寄せる言葉 33P~44P
- 資料 45P~52P
- あとがき 53P



70th



七十周年記念誌 発刊に寄せて

第二十七代会長 森 長 弘 美

昭和二十六年十一月二十四日に北海道図画工作連盟として設立され、その後昭和三十四年に、北海道造形教育連盟と改称された本会は、令和二年に創立七十周年を迎えました。創立からこれまで、全道各地区をつないで実践発表と研究を深め、六十九回の全道大会を開催いたしました。そのうち四回は全国大会と兼ねての開催で、北海道の造形教育の成果を広く発信しています。

また、主催事業である「北海道教育美術展」開催は四十六回を数え、毎年、一万点を超える、日常の表現活動や図工・美術の時間から生まれる子どもたちの作品が寄せられています。

この節目の年を記念して、四月には委員総会に併せて祝賀会を催し、長きにわたる活動を支えてくださった先輩諸氏に、思い出を語っていただく場面を設ける予定でしたが、ご存知の通り、新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの会合や研修会等の開催を中止せざるを得ない状況となり、祝賀会を取り止め、委員総会研修会そのものも書面開催の形で行うこととなりました。

思い出を語っていただく、いわゆる「座談会」は、後日、本連盟の歴代会長であられた稲實 順、安木尚博、三井 哲、阿部時彦、の四氏に加え、関係の深い団体である札幌市造形教育連盟から塚野昭臣、阿部宏行、のお二人の元会長にお集りいただき、和やかに催すことができました。

六名の方々には、主に六十周年以降の十年間の活動についてお話をいただきましたが、その内容と様子は本誌三ページから掲載しておりますのでご覧ください。

さて、六月に学校が再開されましたが、長い休校期間を経て登校した子どもたちの中には、喜びとともに不安や悩みを抱えている者がいたり、時間の停止と共に心の成長も止まり、やっとここから成長が始まったと思える者がいたり、いつもの新学期とは違った様相を呈していました。

大人でさえ、これまで経験したことのない惨禍の中で疲弊しているの

すから、自分の気持ちを上手く表現できない子どもたちとつて、コロナ禍で感じた苦悩を言葉にするのはとても難しいことと言えましょう。子どもたちのために学校は何かができるのか、厳しい規制の続く中で学習をはじめ様々な教育活動を確保していくためにはどうしたらいいのか、話し合い、考え、工夫する毎日が続きました。

そんな時、私たちの携わる造形教育の果たす役割はどうでしょう。言葉にならない思いを、色や形で表現すること。手を動かし、体を使い、心の中にあるものを見せること。思い通りにいかないことが多い今の状況で、自らが発想して製作し、完成させる喜びを味わうこと。まさに表現活動や図工・美術の時間は、心を解き放つ役割を担うことができると言えるのではないのでしょうか。

七十年の節目にあらためて造形教育の担う役割を知ることとなりました。

また、今年度、新学習指導要領が小学校で全面实施となり、令和三年度は中学校、そして高校では令和四年からの実施となります。本連盟も新指導要領を基にした研究に拍車をかけ、令和三年夏に開催を予定していた、全国造形教育研究大会北海道大会へつなげる計画でおりました。しかし、コロナ禍により夏の開催を秋に変更し、形式をオンラインとして、主管する札幌市造形教育連盟を中心に、新たな研究大会の在り方を探りながら準備を進めているところです。形式は大きく変わりますが、創立六十一年目の年（二〇一一・平成二十三年）開催の前回全国大会からの十年で蓄積し、発展させてきた研究の成果を全国の造形教育に資するように発信してまいります。

さて、年が明けての発刊となりましたこの記念誌ですが、私たち北海道造形教育連盟の七十年間を辿る資料であるとともに、これからの造形教育をより豊かなものとするための勢み（はずみ）となることを願っています。

最後になりますが、七十周年記念誌の発刊にあたり、編集に携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

70周年記念 座談会



北海道造形教育連盟創立70周年記念事業 座談会「連盟とわたし」

【日時】

令和二年（二〇二〇年）
十月七日（水）一九時

【会場】

北海道教育大学
札幌駅前サテライト



阿部 時彦先生・阿部 宏行先生・稲實 順先生・塚野 昭臣先生・三井 哲先生・安木 尚博先生

このたびは、北海道造形教育連盟創立70周年記念事業ということで、これまで連盟の中心としてご活躍された先輩方6名による座談会を行いました。本来は春の総会の際に「ライブ座談会」と称し、皆さんの前でお話いただく企画でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、このような形に変更させていただき、令和2年10月7日、北海道教育大学札幌駅前サテライトにて実施いたしました。以下、座談会の記録です。どうぞお楽しみください。

（司会）本日は、お忙しい中ありがとうございました。このようなコロナ禍ではございますが、実際にお顔を拝見しながらお話ができればと思います。お集まりいただきまして。本来であれば、総会の会場にて連盟の会員の皆様の前でお話を伺いたかったのですが、残念ながら叶いませんでしたので、このような形で座談会を行い、記念誌に掲載させていただくことにしました。

それでは、早速進めて参ります。皆様よくお知り合いの方々ですので、自己紹介は割愛します。本日は、二つの話題についてお話をいただきます。前半は、「みなさんにとっての連盟の思い出、エピソード」についてお話いただきたく存じます。後半は、「これからの連盟の皆様に向けてのエール」をいただきたいと存じます。今回はどうしてもコロナのお話になることが多くありますが、あまりコロナのお話にならないようにしつつ、連盟の歴史を紐解いていただきたいと思います。順にはなく、どなたかのお話にどんどん繋げてお話を進めていただけましたらと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。では、どなたか口火を切ってくださいませんか、ようか。

（稲實先生）やはりよく覚えてるのは春の総会後の懇親会ですね。当時は先輩が話をしてもお構いなしに盛り上がりがありました。私芸達者の先輩も多くいました。私

が連盟に入ったのは三十歳ほどの時でしたが、当時の伊藤恵先生の鼻笛、森川昭夫先生の簡単工作、それから伊藤善彬先生の腹話術、奥野郁男先生と多田紘一先生の美しいデュエット、そして最後の締めが種市誠次郎先生と遠藤久男先生のお餅つき、遠藤先生の合の手が絶妙に上手で、種市先生のお餅つきを上手に引き立てる役だったんです。私はその芸にすっかり惚れ込んで、後継をさせていただき、今に至るのです。



稲實 順 先生

いろいろなことを先輩方に教えていただいたと、今改めて振り返ります。四十周年の函館大会の時に、バス旅行をしたのですが、その当時、篠原先生と自分が一番年下で若く、本当にたくさんのお話を学ばせてもらいました。バス旅行もとても楽しく、トイレを探したり、先輩たちのお世話をしたり、貸切バスでのツアーでした。いい思い出です。

*

（阿部（時）先生）今のお話にも奥野先生と多田先生が登場しましたが、本日は中学校ということ、私と塚野先生がおりますが、私は岩手県で一般の会社員から始めて教員となり、一九九〇年に札幌に戻ってきました。次の年が全道大会の札幌大会（三角山小学校）でした。ちょうど南区の札幌研（今札幌市教育研究推進事業：札幌市教委主催の研究組織）の先輩から声をかけていただいて、活動が始まりました。当時は、中学校の時数が減った時で小学校は時数減がなかったタイミングでもありました。当時の先輩が、札幌研の活動は全国の活動に広がらないとのこと、白井國毅先生や奥野郁男先生が造形連盟の副会長になり、声をかけてくださったこともあり、連盟にご縁ができたのでした。一番のよい思い出は、小学校の先生と一緒に授業作りなど、楽しく活動ができたことです。その後、多田先生も役員になられ、奥野・多田のペア（懇親会でのグリーで活躍）もできたのでした。二〇〇一年の全国大会では、イベント局の局長をさせていただき、辛いこともありました。楽しい思い出ができました。全国から提言者を募る企画をし、運営したことなど、たいへんよい経験でした。

*

（三井先生）二〇〇一年の全国大会が最初だったと思います。その時は中の島幼稚園、幌南小学校、三角山小学校が会場でした。私は中の島幼稚園の担当でした。当時は、幼稚園教育のことをよく知ら

ない私でしたが、担当ということに関わることになりました。実際に幼稚園の先生方に関わってみますと、実に真面目で、主任の先生を中心に、遅い時間まで黙々と準備をされていました。子どもとの関わりもとても柔らかく、小学校にいて隣接する校種ではありましたが、幼稚園からもうと学ばなくてはいけないという思いがいたしました。そして、大会が終わった時には、すごく得をしたような気持ちになりました。今も、時彦先生からもありましたが、校種が違うところのつながりや連携が言いますか、人と人との繋がりができたことがよかったです。このような繋がりができるのは大会があることでもあります。扉という考え方（当時の研究の組織立て）が、小学校や幼稚園などの校種を越えて考えるのではなく、校種を越えた考え方であり、この考え方がその後にもつながり、良い伝統のようになって定着してきたと言えるのではないかと思います。これらは大会を運営する原動力となり、人間関係をつくる上でもすごく役に立ったと、ありがたいたと思っています。またこれも連盟の大切な遺産であると思いますし、一方、二十年以上続いているということを考えますと、どこかで見直しをしないで、とも感じています。校種間の交流、人と人とのつながりについて、とても大切であると感じるとともに、自分も多くの人と関わることができて自分の財産になったとありがたいという気持ちです。

（塚野先生）連盟の思い出として一番初めに思い出すのは、連盟の賑やかな懇親会です。中でも小学校の先生とお話をさせていたことがとても記憶にあつて、「自分は美術が専門ではないのだけど、図工、造形の会に入つてとてもよかった」という先生がいたことが印象深く残っています。先輩たちのスピーチの中でも、いろいろな話をすることができたのは、先輩たちの心の広さだと感じています。先輩たちは自分の話を聞くこともよき近頃の先生方と交流をしてくださいたいということだったのだと今になって思います。今はコロナで離されてしまっていますが、人間って、身近に話してお酒が入ったりもして、本音で語ったりして、繋がっていくのだと思います。人の話を聞きなさいと生徒に日常的に話してきた自分も、連盟の懇親会での様子が衝撃的だったのですが、偉い人の話をうんうんと聞くのではなく、近くの人たちとお話をしていることも意味があるということだったのだと思います。先程、伊藤恵先生の話がありました。恵先生がお話をすると、お喋りをしていた人たちもだんだんと静かになり、恵先生のお話に耳を傾けることがありました。これも衝撃的な光景でした。やっぱり学校の先生はお話が上手でなければいけないのだと、その時に強く感じました。それと、三井先生からもお話がありました。幼稚園から大学まで繋がっていく連盟で、自分が教育研究所に赴任した時に、

塚野先生は中学校の先生に見えないと言われたものでした。小学校の芝木先生の後任であったこともあったのだと思います。これはきつと造形連盟で小学校の先生方やいろいろな先生と一緒に仕事をさせていただったり、附属中学校で阿部宏行先生と小中連携でいろいろさせていただったりして、垣根がなかったお陰だと思えます。なぜ、垣根を作らなかったのかというと、小・中の連携、つながりを大事にした白井先生や奥野先生がいらつしやつた時代を共にすごしたからだと思います。今は義務教育学校ができるぐらい、小中連携が強く言われる時代になりましたが、造形連盟は昔からそこに力を入れてきた組織でしたので、今後も幼稚園を含めて大事にしてほしいと思います。

（司会）古い三河屋会館時代でしたよね。連盟の総会の時に新卒時代の私も給仕のお手伝いをさせていただいたことを思い出します。

（安木先生）自分が連盟との関わりを長く続けているのは、人とのつながりだと思っています。自分の中で印象に残っている大会でいうと、留萌大会、根室大会、網走大会、札幌、旭川、函館は順々に行っていますね。根室大会の山口校長先生の花咲小学校での粘土の授業、子どもが四人ぐらいて機を寄せて、一緒になって表現活動を行なっていた、あの授業が忘れられません。今のコロナとは真逆で、共に心を寄せて、その場の空

気を一緒に感じている様子が私を全国大会に病みつきにさせました。この時から、休まずに大会に出席するようになったと思います。思いつくところにあつて、今の自分があると思つています。自分としては、大した仕事はしていないと思つていますが、連盟というか図画工作科教育、造形教育ということが繋がつていきながら今日に生きていますと思つています。やはりいろいろな先生と集めたいと思います。何十年も会っていないくても、会つたその瞬間に当時の気持ちに戻れるということが素敵だと思います。思いつくままに話しました。



安木 尚博 先生

桑園小学校での会議に招集され、会費を取られ、訳もわからずに参加することになったのです。その後十年以上経つてから連盟に声をかけていただきました。幌南小学校にいた四十歳ぐらいの時でした。大会の時は芝木校長先生がいらつしやつて、自分はまだ担任でしたので、自分が授業をしますと話した記憶があります。そして、二〇〇一年の大会の時は、担任を外れ会場校の担当として仕事をしました。芝木校長先生には色々な所に連れて行ってもらいました。高校

の授業参観や中学校への挨拶まわりなどへも一緒に出向きました。そういう人との繋がりがいろいろなところにあつて、今の自分があると思つています。自分としては、大した仕事はしていないと思つていますが、連盟というか図画工作科教育、造形教育ということが繋がつていきながら今日に生きていますと思つています。やはりいろいろな先生と集めたいと思います。何十年も会っていないくても、会つたその瞬間に当時の気持ちに戻れるということが素敵だと思います。思いつくままに話しました。

（阿部（宏）先生）何かから話しましょうか。人としては「深い人」「深い」という言葉がキーワードになる方がたくさんいらつしやいました。連盟とのお縁ができて四十年ぐらいいつたので、いろいろなことがありました。札幌市の活動組織が全市から区ごとになったり、札幌市の連盟ができたり、繰り返しのいろいろありましたが、私と連盟と言いますと、私にとつては菅原清貴先生がとにかく、私のお師匠さんとしていらつしやつたので、このつながりで今も私がお話しているのかと思つています。西区というところもあり、塚野先生、稲實先生とも一緒にすることになりました。私は手稲東小学校に赴任し、その先輩に菅原先生がいて、最初に行かないかと言われたのが、あとで考えると菅原先生の紹介だったと思えます。一九七七年に全国大会が東山小学校でありました。この時のチーフをしていました。

が、伊藤恵先生でした。この時は、授業者や運営に当たる先生方がどこの誰かもわからず、新卒で見に行っただけという感じでした。その後、繋がりができてきて、こういう人たちなんだということがわかってきました。これまでの話にも出ていますが、札幌研と連盟の区別もつかないくらいでしたので、とにかく人の授業を見るという場としてそういう会があるんだぞと教えられ、出ているうちに附属へ赴任するという縁もあり、自分の人生において深い繋がりがあつたかなと思つています。先ほどから出てくる人としては、個性豊かな先生方で、もちろんお酒を飲んだこともありましたし、当時は「工作といえど先生」「物語の絵は〇〇先生」のように先生方に名前がありました。今はほとんどありませんが、専門が同じジャンルでの指導の違いによるパスがあつたり、「紫を使う〇〇先生」のような特徴があつたり、絵を見れば誰の指導かがわかるという時代でした。その後、私たちの時には、造形遊びも入ってきたので、時代も変わってきたかなと思つています。

全国大会の顔ぶれを見ますと、造形教育センターの西野範夫先生が来ていたりとか、全国から著名な先生を呼んでいたりしたので、北海道は東京と直に繋がっていたのだということが、金井秀男先生や伊藤恵先生も出ていらつしやつて、繋いでくださったのだと思ひました。また、当時は大学との繋がりがあまりなかったのです



阿部 宏行 先生

が、もつと昔には大学とももつと繋がっていたこともわかつてきました。四十年、五十年経つといろいろ変わってきたと思いますが、我々は札幌市造形教育連盟ができた時の大雪の中のN.T.T研修センターでの合宿研修（造形冬工房）、思い出というところ、お酒を飲みながら、実技講習会をとおして遅い時間まで、いろいろ学んだことが思ひ出されます。いろいろなことを企画して、先頭に立って実行してくれたのが菅原先生だと思ひます。破天荒ではありましたが、これからの先生方に望んでも望みきれないものもたくさんあります。が、なかなか難しい時代に入つていくなかと思つています。

んながらその魅力に惹きつけられる魅力、結束力、会員の協力を強めてくれて、連盟の一時期を築いてくれたと思ひます。

（塚野先生）菅原先生のすごいのは、過去に囚われぬ、前歴踏襲はしないという考え方。菅原先生が北海道の会長で、私が札幌の会長だった時に、ちょうど東日本大震災があった二〇一一年に全国大会を行ったのですが、その時に全国造形教育連盟（永関先生が会長）と日本教育美術連盟（岩崎先生が会長）で恐らく造形の全国大会を合同開催したのは初めてだったと思ひますが、このスタートを切つたのがこの大会で、菅原先生が両方に声をかけて進めてくれたのでした。この大会のテーマが、「私をつくる」自立と共生の造形活動をめざして」と、これは一般的にはありませんが、授業研究テーマが「あつたかいかいをつなげ合う造形活動」となつていて、研究テーマに「あつたかいかい」という言葉を使ったのでした。この時にも「あつたかいかい」のような言葉が研究に合つかどうかどうか議論になったのですが、いいじゃないかと言つたのが菅原先生でした。ピカソの絵も世に出た時はみな間違いだと思ひていたのでしょうけれど、今では認められていますね。「あつたかいかい」も当時は馴染まなかったと思ひますが、今では正解ではないかとなつてきています。これは、連盟の教育観が「教えるのではなく、子どもをどう育てるか、そのために教師は何ができるのか」という

ことを研究しているので、あつたかいかいという言葉もキーワード、キヤッチフレーズにしてみんなで研究しあえるのだと改めて思ひます。

二〇一一年は三月に地震があつて、七月に全国大会を開催するというのはたいへんなことでした。しかし青森や東北の皆さんも参加してくださったことはたいへんありがたいことで、大会を行うというのは改めて大切なことだと思ひますね。

（司会）当時いろいろな地域の方で提言者等が来道できないと仰つていたことがありましたね。しかし、そのような状況の中でも大会を行なつていました。

（塚野先生）確か、この次の年が沖繩大会で、沖繩のみなさんがたくさん参加してくれていて、「来年は行きますから」とお話ししたことを思ひ出します。実際、沖繩大会の時は台風の影響で二日間沖繩に足止めされたこともありましたが、今でも造形教育の先頭を北海道で進めることができているのは、この造形教育連盟のおかげだと思ひます。

（三井先生）造形教育連盟の人間関係のことが先ほどからいろいろ出てきていますが、連盟の人間関係はとてもフラットであることがすごい特徴だと思ひます。リスベクトはしているのですが、フラットです。自分も年齢を重ねてわかつてきたのですが、授業研究をする時に、上下関係があつたらだめ

なのですよね。「あの人が言うことは正しいから」となるとだめで、若手であつてもベテランでも顧問でも、授業、研究の話になつたらフラットでなければ話し合いができませんと思うのです。忖度していたら何も生まれないと、思います。それが全く感じられないのが連盟。先ほどの懇親会のお喋りにも繋がっているのだと思います。他の研究団体のことを知人に聞くと、これほどフラットではないようです。造形教育連盟はフラットであることが、菅原先生の例もありましたように、活動が大きく展開していく原動力になっていると思います。

(安木先生) 面白いですよね。例えば教育美術展の審査でも、「これがいい」と選考した作品でも、協議の場で駄目となり、「負けただがあつたり、逆に顧問の先生の強い意思で選考した方がいいのです。選考の理由を誰か答えられるのかと悩んでしまつたりということもありました。はつきりと駄目というものもないし、いい意味でのいい加減さ、塩梅のよさという、先程のあつたかいいもそうですが、情に厚い連盟のよさを感じます。言葉にすると適切に表しにくいのですが、諸先輩たちが大人として、教師としての目線をきちんともつていらつしやつたので、自分もたくさん影響されました。自分が、歳を重ねていく中で判断を迫られる時には、絶対にこれだということではなく、みんなをやつていきましようという気持ちになつてい

ます。普通であれば、鶴の一声で決まつてしまうようなことも、なかなかそうではない場面もたくさんありました。実に面白いですね。

(稲實先生) 今、教育美術展の話がありました。私は美術展を仕切つていた立場だったので、今の安木先生の言葉は非常によくわかります。しかし、これって宴席とも同じなのですが、一人一人の先生方の個性、感覚のようなものをすくく大切にしているのだと思うのです。いろいろな言い合ひもするのですが、終わつたらノーサイド。これは美術展を運営していてすくく面白かつたところだと思います。いろいろなエピソードが思い出されますね。

(塚野先生) 美術展に関わつては、作品について子どもの思いを書かせるかどうかの議論がありました。審査の時には審査員が作品を自由に読み取つてよいのだと思ひますが、いろいろな学齢の作品についての審査員の先生方の主観的な思ひをコメントにすることにいろいろな苦勞がありました。展示会場に来てくださった保護者などからの質問に答えるのも苦勞した記憶があります。審査の時の瞬間的な判断や作品から感じ取るメッセージはなかなか言葉として表現しにくいものもありましたね。

(阿部(宏)先生) ここにいる安木先生もそうですが、当時はご自身で絵を描いている先生方がたくさんいたので、道展会員の先生も

たくさんいる中、なかなか物申しにくかつた若い頃の思ひ出があります。私たちはわかりやすさとか伝えやすさを求めるけれど、作家の先生方には作家目線で分り合ひえる名人芸的な一言があつたのだと思います。

(塚野先生) 当時は大先輩の一言は確かに重かつたけれど、それでも若い先生方もいろいろ思ひを語つていたと思ひます。疑問に思つたことを素直に話していいのだという組織だつたと思ひます。

(阿部(宏)先生) 若いながらも「どうしてですか、よくわからないうです」と素直に声をあげていた先生も出てきて、みんなも声を出していいのだという雰囲気が出てきましたね。今はこの流れで審査会もフラットになつてきていて、よい雰囲気だと思ひます。

(稲實先生) このような審査会を裏方で支えてくれた先生方がすごいなあと思ひます。忘年会には作業の後始末をしてから、毎年遅刻をして参加するとういうようにご苦勞していましたが、今はデジタル化が進み、どんどん効率的に便利になつたと感じます。一人一人の先生が自分の仕事を理解し、よりよくしようと思ひています。力強い組織力を感じた経験でした。

(塚野先生) 毛馬内先生を初めて知つたのは職員体育での野球大会でしたが、その毛馬内先生が写真の専門家として審査会の時に作品の写真を撮影していたのが驚きで

した。当時からその道のプロのよいうな先生がいて、そのノウハウを後輩に伝えてくれて、その伝統が守られているのがすごいと思ひます。



塚野 昭臣 先生

(阿部(時)先生) 毎年一月四日から働かなくてはいけなくて、印刷業社さんに行つて名簿の校正をしていましたね。

(司会) 奨励賞作品は、写真班のところを持っていき、撮影してもらつていましたね。

(稲實先生) あの写真業務は初め伊藤先生が行つていたので、そして毛馬内先生にバトンタッチして、小林先生に引き継がれていますね。

(三井先生) 話は少し変わりますが、研究大会があつた時に、二〇〇一年の時を振り返ると、美術館との連携も進めてきたし、新しい

ことに挑戦していた時期があった
と思います。芸術の森との関係な
どは、担当者が苦勞してました
が、みんなで乗り越えて、大会の
スタイルが確立してきたと思いま
す。この後も芸術の森との連携も
進んでいます。みんなでポトムア
ップで挑戦し、進めてきたと思
います。



三井 哲 先生

プランが既にきちんとあるので
はなく、やりながら創り出してき
たことが連盟の中にはたくさんあ
ったと思います。連盟の会員の底
力を感じますね。

（塚野先生）資料の中にある立体
造形展についてですが、これはヨ
ーク松坂屋で行なったものだと思
うのですが、それまでは立体造
形の展覧会がなかったのです。立
体造形の公募展がなせ無かったの
かと言うと、最終打合せの段階で
輸送困難や破損の恐れがあったた
めとあります。当時、連盟の先生
方でなんとか実現しようと思慮さ

れたけれど、なかなか実現できま
せんでした。発明工展展のような
自由研究的なものではなく、授業
の中で生まれた立体作品による展
覧会を行いたいという思いがあり
ました。これを実現したのが伊藤
恵先生です。伊藤恵先生が中心と
なってまとめているのです。でき
ないと諦めるのではなく、なんと
かならないものかと、いいものは
やってみようという精神が造形連
盟の中にあるのではないかと思
います。このような自由さ、おおよ
かさ、努力する姿勢があったのだ
と思います。

（安木先生）そうすると、ものづ
くりとか絵を描くことに似てくる
じやないですか。試すことやなん
とかなるのではと、失敗してもや
り直せばよいという考え方は造形
活動そのものにも通じるところ。
いろいろ企画も、こんなアイデ
アならどうか、こうすれば実現で
きるのではないかとといった工夫し
ながらなんとか実現しようとする、
造形連盟の思考の延長線上に全て
があるように思います。いろいろ
な研究大会があっても、共通して
造形の面白さが出ているなど感じ
ます。その地域にはその地域の取
組があり、アイデアを出し合うよ
うな姿勢がそもそも染み付いてい
るのだと、これまでのお話にも共
通しているなど感じました。であ
るので、いいとなればやろうか
となるし、連盟の皆さんはネガテ
ィブにならないですよ。

（稲實先生）先輩方って、活動を

運営する上での連携が上手でした
ね。様々な団体などとの繋がりを
巧みにつくつくつてくれています。

（阿部〈宏〉先生）昔は、大人の
道展に対し、子どもの子ども道展
があるなど、当時の世の中の動き
もあつたと思いますが、スポンサ
ーとの関わりは時代とともに変わ
ってきていますね。

（塚野先生）時代とともに無くな
ってきたものがたくさんあります
ね。しかし、無くしたくないもの
もあります。コロナ禍が終わった
ら、復活させたいこともありませ
が、しっかりと引継ぎをして残して
いくものをきちんとしないといい
ないですね。

（司会）素敵なお話をありがとうございます。
ごさいます。六十分ほど経ちまし
たので、ここで休憩します。

（司会）今まで、思い出や先輩た
ちのお話がありました。ここか
らは後輩たちへのメッセージを中
心にお話を伺いたいと思います。

（塚野先生）全国大会は来年です
よね？（はい、来年二〇二一年で
す）コロナ禍もたいへんだけれど、
全国大会はとも大切な会だと思
いますので、形はいろいろであつ
ても、しっかりと行なって欲しいと
思います。もしこのまま二、三年
行うことができなければ、大会の
ノウハウを引き継げる人がいなく
なってしまうのではと心配です。
本当に大変だとは思いますが、是

非がらばって欲しいと思います。

（阿部〈宏〉先生）四十年経って
みて、時代とともに変わってきた
こともたくさんあるので、これか
らもう変わり続けると思いますが、
全道の他の地区との繋がりにつ
いては更に確かなものにしなけれ
いけないと思います。かつての旭
川大会の時に菅原先生が興した「根
つこ会議」が今のネットワーク会
議になってきているのですが、今
のインターネットなども活用して、
道内にも熱心に行なっている先生
もいらつしやるので、みんなで一
緒に活動することを念頭において
活動してほしいと思います。そし
て、やはり、人が強くならないと、
一人一人が強くないといけな
いだろうと思います。連盟のよさ
はチームで動いた時にすつと動け
るよさがあるので、一人一人の強
さに併せて、チームで取り組むこ
とも必要だと思えます。外側から
の話をすれば、コロナが終息した
後は、元に戻るのか、元に戻る必
要のないものは戻す必要がないの
で、できることを確実にを行うこと
が大事だと思うのです。もう一つ
は、働き方改革ではないですが、
先生方が土日に出て、研修するこ
うな問題があります。その中で、
何が大事で、何をしなければなら
ないのか、優先順位を付けなければ
いけないのかという心配もあり
ます。これまでのように手弁当で
夜遅くまで、土日にも会議を行う
などはなかなか難しくなっていく
と思います。

（稲實先生）^{*} このような時代の中であつても、先生方個々の実力を高めなければならぬと思ひます。その時代その時代に合つた実力を高めていくと同時に、チームワークを大事にしていかなければ、なかなか連盟も発展していかないのではと思ひます。どんなにいろいろな事にチャレンジしていいと思ひます。ただ、チャレンジしつつ放しでは困るけれど、もう一度フィードバックして、反省しながら過ぎしていかなければこれからの連盟は発展していかないと思ひます。みんな協力してがんばつてほしいという思ひを強くもつています。

（三井先生）^{*} 連盟の原点は、授業研究をする、よい授業を行いたいということだと思ひますが、これまでしっかりと受け継がれてきた事と、見えなくなつてしまつた事の両方があると思ひます。自分自身のことをこのような視点で考えてみると、連盟に所属して、自分にストンと落ちてきたのは、子ども一人一人を思ひ浮かべると言うか、丁寧に見ると言うことがあつたとあつたと思ひます。教育美術展でも、どうしてその絵を描いたのだらうか、どんなプロセスがあつたのだらうかなど、結果ではなくてプロセスに思ひを馳せて一人一人の子どものことを考えるようになりました。または、授業中も一人一人の活動の様子をしっかりと見ることに、これは連盟でもずっと大事にされてきたことですが、自分でもこの連盟に入つて、見方が

変わったと言うか、成長できたと思ふことです。これらのことは、図工とか美術だけではなくて、他教科の授業を見る時にも大事な視点としてあると思ひます。先程、阿部宏行先生は一人一人が強くなることをお話しされてました。小学校の教員は全教科を受け持つので、他教科においても連盟で学んだことを広げ、応用してほしいし、この見方は学習指導要領で強調されている主体的、対話的で深い学びということにも通じる見方だと思ふので、これからも実践で深めてほしいと思ひます。造形教育連盟の伝統を引き継いで頑張つて活動している先生方の姿を見ているので、それは十分可能だと思ひます。ぜひ頑張つてほしいと思ひます。

（阿部（時）先生）^{*} 北海道造形教育連盟は、札幌市造形教育連盟ができるまでは、授業者や提言者を北海道の連盟から選出して行なつていたという経緯がありました。今は、授業に関しては札幌市造形教育連盟で進めています。今は、北海道造形教育連盟の組織も事務局も小さくなりつつありますし、ハブ空港のハブのように全道の支部との連携を取る組織になつていると思ひます。

その中では、管理職不在など、支部も運営が厳しい状況があるようです。しかし嬉しい話題としては、宗谷に新しい組織ができたこととがりました。このように各支部と繋がっていく上では、札幌の組織がとても大事だと思ふ訳です。



阿部 時彦 先生

札幌には、これだけの図工、美術の先生がいるので、義務教育学校における一人体制や特別支援学校との兼務などの現実もある中、全道の中心となつて組織を運営していくことが大事だと思ひます。具体的には、プロジェクトZ（講師を派遣し、研修を行う仕組み）が大変よい取組だと思ひます。空知の研究会からお誘いをいただき見に行きましたが、地区の頑張りを感じるのと同時に、地区の頑張りを感じるのの重要性を感じました。例えば義務教育学校などは、中学校の先生が小学校で教えるということもあるのです、このような意味でも研修を行うとよいと思ひます。

（安木先生）^{*} 先生方の一人一人の力量は、授業でしよう。授業を行わないと力はつかないでしよう。今はコロナなので全部、内に閉じていますね。なかなか開けない状況がありますが、授業はやはり見

てもらつての効果というのが相当あると思ひます。保護者の参観もそうだと思いますが、見られることでの意識はとても大事だと思ひます。同じ教科の先生に見られるというのを数多く経験していることが大事ですね。厳しいことを言われても、頑張れよと励まされたり、自分の授業の方法は先輩方から教えられたことばかりだったという自分がいます。実践研究をどれだけ重ねられているかというところが、子どもたちのためと言ひながら、自分のためでもあります。だから続けられるのだと思ひます。自分のためだと思ひたことを、また子どもにも返してあげられる。この循環がとても大事です。このような時代となり、リモートで授業をみて討議するのも有るのかも知れませんが、何人かの人が入つて協議するなど有るのかも知れませんが、リモートの授業での作品と対面で行つた授業の作品とどう違うのかを比較するなど、いろいろな取組ができるかも知れませんが。今まで考えたこともない、見たこともない授業がこの二、三年後に行われることがあるかも知れませんが。

（司会）北海道の方は、オンラインの研修や会議を行なつていて、いろいろな支部の方が参加して便利に進めることができるようになってきています。しかし、本日の会のように実際に顔を見ながらお話をすることの大事さも改めて感じていきます。

(三井先生) 現在、オンラインやオンデマンドで研究会が行われています。そこでは授業をビデオ撮影してそれを全員で見合うということをしていきます。実際に教室で参観し、それぞれの視点で授業を観察するのがベストだと思いますが、ビデオを見ると、全員が同じところを見ているので深いリフレクションができるという良さがあります。様々な視点からの議論をするのは困難ですが、ビデオを使うことはマイナスばかりではないと思います。授業研究を進める上では、焦点化した議論も大切ですから、それぞれの特性や良さを生かして研究を進めていくとよいと思います。来年の大会に関わる先生方には、例年どおりにできないことには、前向きに取り組んでほしいと思います。そして近い将来、これまでのように教室で授業を観察し、自由に深い議論ができる研究大会を開催したらよいのではないかと思ったりもします。

(司会) 今後は、式典や研究会の在り方が変わるのではないかという意見もあります。一日に多くの人が集まるようなイベント的な取組について、枠組自体が変わる可能性もあります。造形連盟の大会も新しい形ができていくのかも知れませんね。実際に集まる人、オンラインで参加する人など、ハイブリッドな新しい大会になるかも知れませんか。

(三井先生) 昔がよかったという

話ではありませんが、かつては新しい題材を開発しようというエネルギーが高かった。今は、あまり表に出て来ないと感じますが、これからはもっと新しい題材開発に目を向けることも大事だと思います。

(塚野先生) 時代の流れに敏感に反応すること、いろいろな挑戦をして失敗しても構わないという考え方、図工、美術の特性を大事にしていきたいものです。カリキュラムマネジメントの核となるのは美術であるという記事があります。が、中学校の先生は美術だけを教えるのではなく、例えば評価の研修の時に美術の先生が評価について語るとか、子どもについて語るなど、広く教育や子どもを語れる教員にならなければいけないと思います。校内装飾の仕事も前年度踏襲ではなく、自分なりに創作して、学校の中にも存在感のある教員であってほしいし、そういう存在になれると思うのががんばってほしいですね。

(司会) 本日はお忙しい中、また、コロナ禍でのご心配が募る中にも関わらず、このようにお集まりいただき、ありがとうございます。また心から御礼申し上げます。またいつの日か、連盟の皆様でリアルに聞き合える座談会ができればと思います。一人一人が強くなるということとは、一人一人が優しくなるということだと思います。子どもの前に立っている姿が想像できる、そ

の人となりやがしみだしてくる、そんな先輩たちのような素敵な先生でありたいと思います。先輩たちから教えていただいたことをこれからも受け継ぎ、北海道造形教育連盟を元気にしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

座談会の皆様の略歴 (五十音順)

- ・阿部 時彦 先生
(北海道造形教育連盟第二六代会長)
- ・阿部 宏行 先生
(札幌市造形教育連盟第八代会長)
- ・稲實 順 先生
(北海道造形教育連盟第二三代会長)
- ・塚野 昭臣 先生
(札幌市造形教育連盟第六代会長)
- ・三井 哲 先生
(北海道造形教育連盟第二五代会長)
- ・安木 尚博 先生
(北海道造形教育連盟第二四代会長)

- 文責 堀口 基一
(北海道教育大学附属札幌小学校)
- 写真 小林 知広
(札幌市立手稲山小学校)



大会の足跡

- 第61回大会 2011年（平成23年）
札幌大会
【全造・日美共催 全国大会】
- 第62回大会 2012年（平成24年）
帯広・十勝大会
- 第63回大会 2013年（平成25年）
石狩大会
- 第64回大会 2014年（平成26年）
上川・旭川大会
- 第65回大会 2015年（平成27年）
函館・渡島大会
- 第66回大会 2016年（平成28年）
札幌大会
- 第67回大会 2017年（平成29年）
釧路大会
- 第68回大会 2018年（平成30年）
空知・岩見沢大会
- 第69回大会 2019年（令和元年）
道北ブロック大会



連盟のマークについて



「北海道造形教育連盟のマーク」を、皆さんはご存じでしたか。これは、昨年百歳で天寿を全うされた故 伊藤 恵先生がデザインされたものです。

このマークはバッジ（襟章）にもなっていて、以前は、総会時や研究大会など、連盟の正式な会の際は身に付けてこられた会員の方も多かったのですが、最近は、そういった姿も見られなくなり、バッジ自体をお持ちの方もめっきり少なくなっていました。

また、マークの見方についても、創設から年月が経つにつれ、次第に正確なことを知る人がいなくなっていました。

今回、デザインされた伊藤先生の訃報に接し、マークについて、記念誌の中で何らかの形で残しておくことが必要ではないかと考えました。そこで、過去の記念誌の中から「マークのいわれ」について触れられた部分を探し、皆さんにお伝えすることにしました。

調べると、上にあるように、ご本人がマークについて述べられている一節を見つけました。他にも、一時は、形が少し変わったまま、気づかず使用されていた時期があったこともわかりました。

残念ながら、作者ご本人から、このマークのことをお聞きすることはもう叶いません。ただ、マークについて改めて知ること、マーク自体はもとより、連盟創立当時の先生方の熱き思いを、次の世代へ確かに繋げていこうと気持ちを新たにしました。

この場をお借りし、K先生（恵先生の愛称）のご冥福を心よりお祈りいたします。

デザインの意味は、

中の「図」と外の「工」（四つ星形）

↓「工」とからできています。

はじめ「北海道図画工作教育連盟」の略称「図工連盟」の「図工」をそのままデザインしたものです。

伊藤 恵

《北海道造形教育連盟

創立四十周年記念誌より抜粋》

北海道造形教育連盟のバッジ

黒と黄の、そのバッジは、かつて「図画工作連盟」と言ったころにできたもの。

黄色い「はと」の形は、

黒い形と共に

図画の「図」の字をあらわし、

外側のわずかにくぼんだ四辺形は、

工作の「工」と、

北海道の「H」とをあらわしたものだ。

《北海道造形教育連盟

創立十周年記念誌より抜粋》

第64回全国造形教育研究大会
第62回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会
第61回 札幌大会（全国大会）

第64回全国造形教育研究大会
第62回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会
第61回全国造形教育研究大会 札幌大会

全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 共同開催
全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道

研究主題

“わたし”を創る
～自立と共生の造形活動をめざして～

授業実践テーマ「あったかい！」をつなげ合う造形活動

会期 2011.7.26～7.28
会場 札幌市立幌西小学校 札幌市立円山小学校
ホテルライフポート札幌 札幌市民ホール

主催 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟
北海道造形教育連盟 札幌市造形教育連盟

1 研究主題について

□ 研究主題 □

”わたし”を創る

～自立と共生の造形活動をめざして～

□ 授業実践テーマ □

「あったかい！」をつなげ合う造形活動

□ 授業実践から考える

北海道造形教育埋盟の研究主題「”わたしを創る！”～自立と共生の造形教育をめざして～」

を、札幌市造形教育連盟ではどのように授業（造形活動）で具現化していくのかを考えました。

平成十九年度から二十二年度まで四年間で幼稚園から、中学校まで十六本の授業公開を行い、

私たちが大切にしたい造形活動を通して見えてくる子どもの姿を整理してきました。

□ 「やってみてみたい！」

小学校では段ボールを組み合わせて教室を変身させていく授業を行いました。たくさん段ボールとの出会いにより、「こんなことしてみたい！」と大喜びする子どもの姿が見られました。段ボールを吊るしたり、組み合わせたりと生き生きと造形活動を楽しむ姿がありました。友達と協力する姿から、「もつとやってみてみたい！」という思いがどんどん教室に広がり、「あったかい」雰囲気になりました。

□ 開催日 □

平成23年（2011年）7月26日（火）
～28日（木）

□ 会場校 □

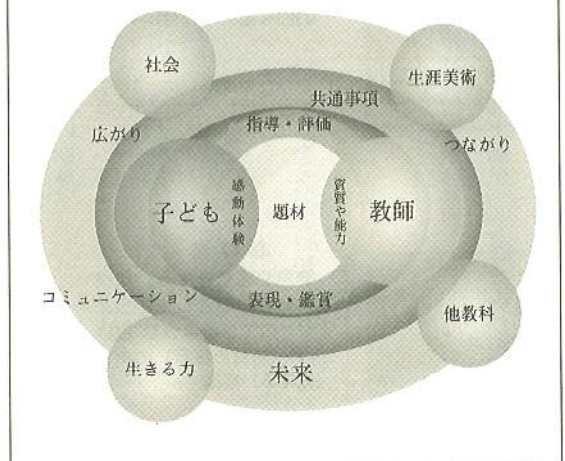
札幌市立幌西小学校
札幌市立円山小学校

□ 教師の価値付け

中学校では、粘土で手をつくるために手のポーズを考える授業を行いました。この学習では、子ども同士での交流を大切にしました。デジタル・カメラで自分の考えた手のポーズを友達に撮影してもらいながら、より自分の思いが表現されるようなポーズを友達と考えていくことが出来ました。友達からの価値付けで自信をもつ子どもの姿が見られました。教師が活動を評価していくことで、子どもたちはさらに友達とかわらうとする姿となりました。

私たちは一人一人の思いを大切に造形活動を支え、そして、そこにいるみんなが「あったかい」思いになるために、その時々適切な

『あったかい！』をつなげ合う扉の構造図



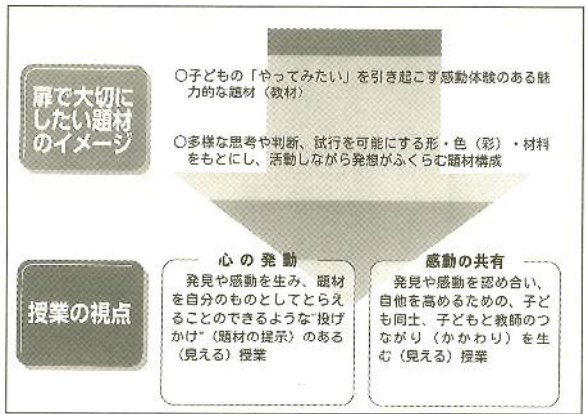
幌西小学校と円山小学校の二会場で授業を開き、市民ホールでは、全員シンポジウムを開きました。ピンクと白のうちわの色でお互いの考えを共有しました。

2

授業公開について

「あったかい！」をつなげ合う三つの扉

- こどものまなざし
- みらいへのまなざし
- 教師のまなざし



指導と必要な支援は何かを
考えて実践し
「あったかい！」をつな
げ合う造形活
動」をめざす
研究の体制を
構築しました。
（大会紀要か
らの抜粋）

授業者一覧

会場校：幌西小学校	どんだん広がる みんなの色	伏見小学校	1年	中川 治	土の中たんりんたい	札幌幼稚園	年長	高橋 梓
	くるくるカラフル	緑丘小学校	4年	濱口 裕子	思いとび出して	手稲西小学校	4年	藤岡 真弓
	ばく・わたしの心もよう	伏見小学校	4年	楠本 美奈子	カラフル ワンダー ホール	円山小学校	3年	宮田 珠世
	空 ☺ 遊ぶ	幌西小学校	3年	土門 俊介	感じて語ろう	西岡中学校	2年	多田 絵美
	きこく はなそう かんじよう	中の島小学校	6年	祖父江 瞬	My Life+	米里中学校	2年	細川 亜矢子
	Peace Message Card	あいの里中学校	2年	寺林 陽子	おもいを言葉に	手稲中学校	2年	川内 亜矢子
	にじいろの もりで あそぼう	いなづみ幼稚園	年長	三浦 真奈美	旅するムサビ in 札幌	円山小学校	6年	武蔵美人生 教育人生
	大切な相手へ	幌西小学校	2年	吉伊 宏子	もく木 トントン わくわく	あやめ野小学校	3年	橋本 祥子
	高校の美術科のあり方と授業	札幌北中学校	1年	則友 淳子	くるくるワールド	百合が原小学校	3年	欠野 宣利
		旭丘高等学校		齋藤 周	みてみて発見！	屯田北中学校	2年	市川 雅基
会場校：円山小学校								



上 2枚：扉分科会・ワールドカフェ
方式・全員シンポジウム
左上2枚・下2枚：授業の様子
左 1枚：旅するムサビ in 札幌

3

大会の様子

「あったかい！」をつなげ合う造形活動が、たくさんの場面で繰り広げられました。誰もが素敵な笑顔になりました。



第62回 帯広・十勝大会

第62回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会 研究紀要

大会主題「わたしを創る～自立と共生の造形教育を目指して～」
大会テーマ「つくるとき・つながるとき」
研究主題「豊かな心をはぐくむ造形教育」



会期 2012年7月27日(金)
◎大会関連事業ワークショップ 7月26日(木)
会場 帯広市立第5中学校
北海道立帯広美術館・帯広市緑ヶ丘公園
主催 北海道造形教育連盟
帯広市教育研究会 函館工業部会
十勝管内サークル協議会 十勝造形サークル
後援 北海道教育委員会・十勝管内教育委員会 連絡協議会
帯広市教育委員会・十勝小・中学校校長会・帯広市校長会
帯広市教育研究会・十勝管内サークル協議会
帯広幼稚園協会・北海道立帯広美術館・帯広百年記念館
帯広市PTA連合会



□ 開催日 □
平成24年 (2012年) 7月27日 (金)
□ 会場校 □
帯広市立第5中学校
北海道立帯広美術館

1 研究主題について

□ 大会テーマ □

「つくるとき・つながるとき」

□ 研究主題 □

豊かな心をはぐくむ造形教育

□ 子どもと子どもがつながる 子どもと社会がつながる 子どもと未来がつながる

子どもたちは未来からの預かりものです。今、大人である私たちは、自分たちが過去から預かったものを更に磨き、高めて子どもたちに渡していかなければなりません。そして渡された子どもたちが次の未来を創りだす力を作るきっかけとなる「種をまく」のが教育です。特に造形

教育は「誰も見たことがない」「その時のその人にしかできない」ものを作り出すことのできる力を養うことができるものです。これは未来を生きる子どもたちにとってとても重要な役割を果たすものです。

生きることは同じことが二度と起きることがなく、誰も生きたことのない人生を自分で決めて創りだしていくものです。ともに同じ時期を生きる仲間と「つながる」こと、今の社会が求めている力を高めることで「つながっていく」こと、そしてその力が自らの、それぞれの、みんなの未来と「つながる」ことが実感できる造形教育を探っていくことが課題です。

大切にしたい八つの柱

- 一 子どもとの心と表現をみつめる
- 二 子どもと社会をつなぐ
- 三 子どもと未来をつなぐ
- 四 子どもと子どもをつなぐ
- 五 共感しあう
- 六 全道の仲間とつながる
- 七 豊かな心と造形教育
- 八 新学習指導要領

「みんなで語り合いたい3つの視点」

みんなで語り合いたい 視点1 「つくる」

「形で語る・色で語る」
～「造形を深める」ということ

みんなで語り合いたい 視点2 「つながる」①

「学びの場」
～学級づくりと授業について

みんなで語り合いたい 視点2 「つながる」②

「研修・研究」
～教師もつながるということ

□ スタートは子どもとの心と表現を見つめる

先述の三つの「つながる」を実現するために必要なのは「今、自分とともにいる子どもとの心と表現をみつめること」です。教育研究では様々な方法が検討され、生み出され、広がっていき

ます。時には表現方法が独り歩きしてしまうこともありますが、スタート地点さえ見誤らなければ、必ずゴールにたどり着けるはず。作品づくりのスタートは子どもの心、ゴールはその子の作品です。（研究紀要より）

2 授業公開について

五つの分科会、それぞれのコンセプトで授業を考えます。

第一分科会「心をうつす」

・・・版画・合同分科会

第二分科会「わたしをつくる」

・・・小学校分科会

第三分科会「私をつくる」

・・・中学校分科会

第四分科会「みんなで作る」

・・・幼稚園・小学校

第五分科会「未来へつなぐ」

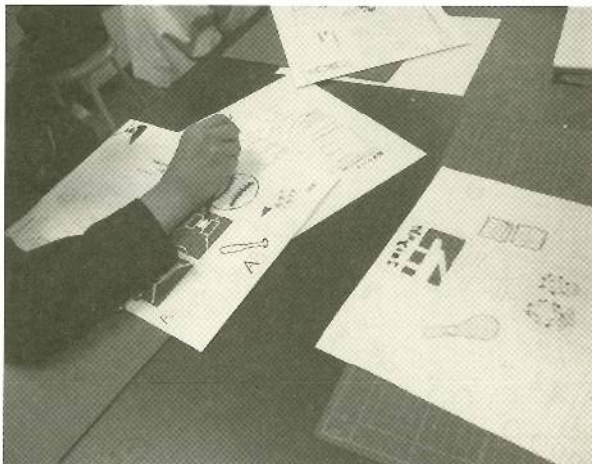
・・・中学校・高等学校

◇語る・つながるシンポジウム◇

「なぜ今、美術教育か」

授業者一覧

版を生かして「酪農」（版画）～地域の生活を版で表そう～	音更町立下土舘小学校	6年	池田 圭子
わたしたちの木をつくろう 1本の木からみんなの森へ	帯広市立北栄小学校	3年	金子 里奈
心をうつす ～ランプシェードの制作～	幕別町立札幌内東中学校	2年	神下 朋実
みんなで作ろう 葉っぱのお皿づくり	帯広第二ひまわり幼稚園	年長	鈴木 みなみ
紙のフラワーロード	帯広市立広陽小学校	6年	岩村 美希
美術館で「見る」授業 榎方志功展の鑑賞	帯広市立帯広第一中学校	2年	村中 鉄也

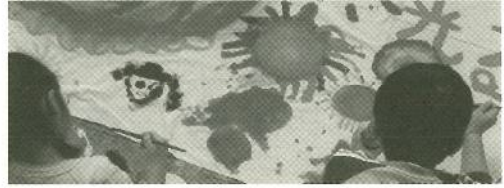


3 大会の様子

大切にしたい八つの柱、みんなで語り合いたい三つの視点、をもとにした授業提案から学び合いました。

第63回 石狩大会

第63回 全道造形教育研究大会 石狩大会
2013/07/29-30 石狩市立緑苑台小学校



「豊かな心と確かな力を育む造形教育」
～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して～

北海道造形教育連盟
http://hokkaido-shiki.jp/
石狩造形教育連盟
http://shiki-shiki.jp/



□ 開催日 □

平成25年（2013年）7月29日（月）
～7月30日（火）

□ 会場校 □

石狩市立緑苑台小学校

1 研究主題について

□ 大会主題 □

「豊かな心と確かな力を育む造形教育」
～子どもの「こうしたい！」
があふれる授業を通して～

□ 研究の過程 □

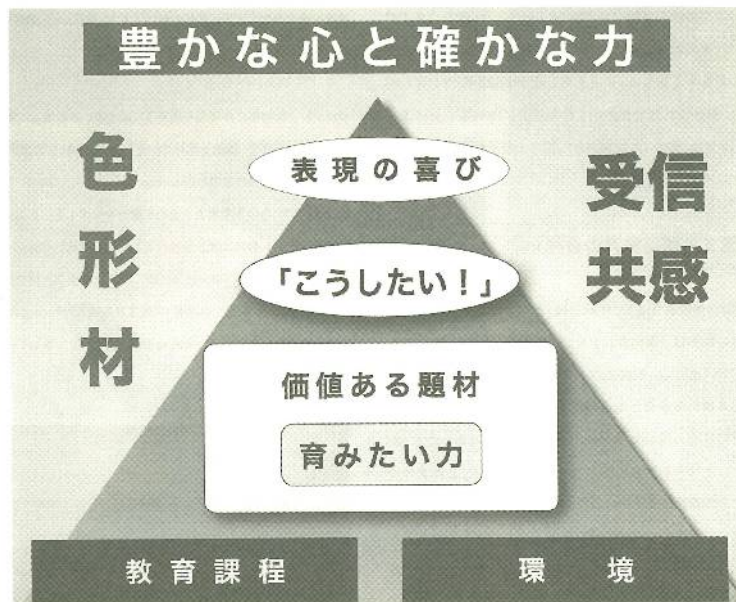
一昨年、札幌で開催された全国造形教育研究大会では北海道の造形教育の質の高さが評価されました。そして、昨年の十勝、帯広大会では地域の活力を実感させるものでした。このように全道造形教育研究大会が毎年開催され、教師が学び合い、高め合い、北海道の美術教育を充実発展させてきました。こうした継続の中から、

すぐれた授業実践や研究が多数なされてきているのは周知の通りです。

□ 造形教育連盟の果たす役割 □

しかし、一方で「図工の指導はよくわからない」「どう教えるの?」という先生が意外と多いことや、中学校では免許外による指導も多いという実態もあります。また、図工美術の授業で何を育むかよりも、何をどう描かせるかといった作品作りそのものが目的化したような授業もいまだに少なくない実態にあります。

さて、このような状況をとらえ、私たち石狩造形教育連盟は研究の成果を提案するだけでなく、美術教育の研究団体として、教室で課題



を抱いている先生方のために何かしなければならぬと考えました。と同時に造形活動のもつ教育的な価値や魅力も伝えたいと考えました。

□ 図工・美術教育の目標 □

大事なことは優れた作品をつくらせることではなく、子どもが活動を通して学び、育つことにあります。「何をつくらせるか、何を描かせるか」ではなく「色と形と材料」に関わりながら、「何を育てるか」ということが造形教育の本

米の目標です。ですから、ただ何もせず、放任しておくことも違います。本研究では「豊かな心と確かな力を育む」ことを目標としました。ただし、ここでいう「確かな力」とは、立派な作品をつくるためという意味での「確かな力」では、ありません。「学習を通して身につけていくべき力」です。これを石狩では「育みたい力」として具体的に示しました。

(研究紀要より)

2

授業・実践発表・

ワークショップについて

「確かな心と確かな力」を育むため、授業は、まず「子ども」から

二日日程で開催された大会では、たくさんさんの公開授業、実践発表、ワークショップが行われました。

○公開授業

幼稚園(2)・小学校(5)・中学校(2)

○実践発表

幼稚園(2)・小学校(5)・中学校(7)

小中高を通して(1)

○講演会・・・二講演

○ワークショップ・・・八分科会

授業者一覧

「自分たちの森をつくろう」 絵～共同制作	札幌緑路光真幼稚園	年中	木下 明口香
自分の「絵の具島」を描こう 想像の絵	札幌緑路光真幼稚園	年長	島中 礼子
ならべて つんで	石狩市立緑苑台小学校	1年	小笠原 晴美
風でダンシング	石狩市立緑苑台小学校	3年	堀田 裕也
開けてびっくり!とび出すメッセージ	石狩市立花川南小学校	4年	高木 亮一
スケルトンツリー	石狩市立緑苑台小学校	5年	千葉 道子
墨から感じる形や色	江別市立東野幌小学校	6年	金住 ゆかり
あのときの、あの気持ち ～心をのぞいて見てみたら～	江別市立江別第一中学校	1年	渡邊 麻子
並べると、集めると、合わせると、すてき	当別町立当別中学校	1年	佐藤 哲



上から：対話による鑑賞

中学校美術部顧問連携を願って

左：講演会

下3枚：授業の様子



3

大会の様子

様々な角度から、図工美術を考えた授業とワークショップが展開されました。



第64回 上川・旭川大会

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会



大会研究テーマ 「わたしの喜び」あふれる造形活動

開催日 2014年7月29日(火)
 場所 旭川市立永山中学校
 主催 北海道造形教育研究会 (旭川大会実行委員会) 旭川市教育委員会 (旭川大会実行委員会)
 協賛 北海道教育委員会 旭川市教育委員会 旭川市立永山中学校
 協賛 旭川市立永山中学校 旭川市立永山中学校 旭川市立永山中学校
 協賛 旭川市立永山中学校 旭川市立永山中学校 旭川市立永山中学校

1 研究主題について

□ 研究テーマ □

「わたしの喜び」あふれる造形活動

□ 研究主題 □

創造の喜びを実感できる

造形活動をめざして

前回(第五十九回全道造形教育研究大会上川・旭川)大会テーマは「身体で感じ・心はずませ・創造する喜び」、研究主題は「いま・ここで「つなげる」造形教育を求めて」であった。また、学習指導要領の改訂では「生きる力」を育む重要性が継承され、基礎基本の確実な習得とそれを活用して課題を解決する力の育成がうた

われている。造形教育においては、改訂の趣旨を踏まえ、表現及び鑑賞の活動を通して、児童生徒が感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことが示されている。

前回大会や学習指導要領の改訂の趣旨、造形教育のねらいなどを踏まえ、将来の上川管内及び旭川市の造形教育のビジョンを具体的に示したい。

また、平成二十三年度より、旭川市教育研究会工・美術部は上川造形教育研究会と連携し、研究内容の共有化を図った。広域的な授業実践の交流や事業の共同開催などに取り組み、上川

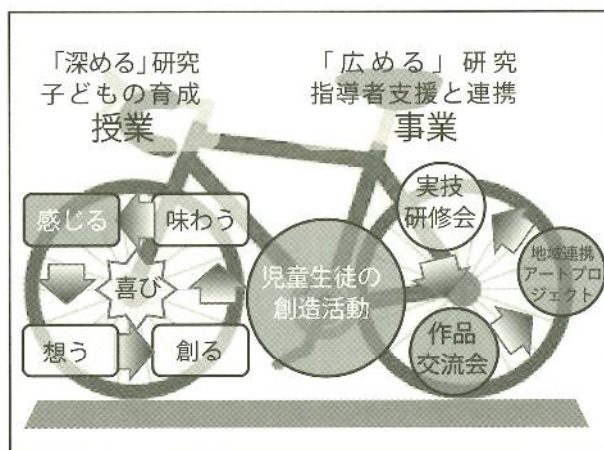
□ 開催日 □

平成26年(2014年)7月29日(火)

□ 会場校 □

旭川市立永山中学校
北海道立旭川美術館

管内全体で造形教育を活性化させることがねらいである。また、義務教育九年間を見通した小中学校の連携を基盤とする研究組織の改善を図った。さらに、日常の授業改善を考える「深める」研究と、指導者の支援や造形教育に関わる他機関と連携する「広める」研究を自転車の両輪と同様に、バランスよく実践する研究推進のコンセプトを提案した。



□ 「深める」研究

①身に付けたい基礎的な能力と育てたい力の明確化

②題材構成の工夫

③発達段階に応じた効果的な手立ての工夫

④ 指導に生かす評価の工夫

□ 「広げる」研究

① 実技研修会（研修・支援事業）

② 作品交流研修会（研修・交接事業）

③ 児童生徒作品展審査研修会

（研修・支援事業）

④ 旭川地域連携アートプロジェクト

（研修・連携事業）

（研究紀要より）

2

授業公開について

□ 深める研究

□ 広げる研究

□ 会場

○ 旭川市立永山中学校

・ 授業公開

（幼4実践・小6実践・中4実践・高1実践）

・ 造形まつり in 全道造形

（十五の地区サークル・ブース）

○ 北海道立旭川美術館

・ 造形教育を語る集い

授業者一覧

海の世界へレッツゴー！	旭川大学附属幼稚園	年長	阿部 清香	あつたらいいなこんすいぞくかん	旭川市の木造雅則	年長	井手 愛
虫の世界へレッツゴー！	旭川大学附属幼稚園	年長	生駒 知恵梨	ぼくたちわたしたちのみらいタウン	旭川市の木造雅則	年長	川森 恵未
すなやつちとなかよし／ねんどで	旭川市立美光小学校	1年	小川 雄平	だいじな宝箱	旭川市立南中学校	1年	澤田 克之
なにに なるかな	旭川市立永山小学校	1年	西永 円	アートレポーターになって	旭川市立南中学校	5年	栗林 友恵
想像美術館	旭川市立南中学校	1年	山田 幸子	最高な〇〇な顔	富良野市立南中学校	1年	藤原 賢
想像のつばさを広げて	旭川市立北野小学校	6年	木村 文香	見立てて、ふれて、広げよう	旭川市立南中学校	小5～小6	松本 敏博 吉田 幸子
影絵遊び演習展授業旭川の影絵家展～具象と抽象～	旭川大学附属旭川小学校	3年	渡辺 悟史	コマ撮りアニメーション	北海道立旭川高等学校	1年	板谷 諭使

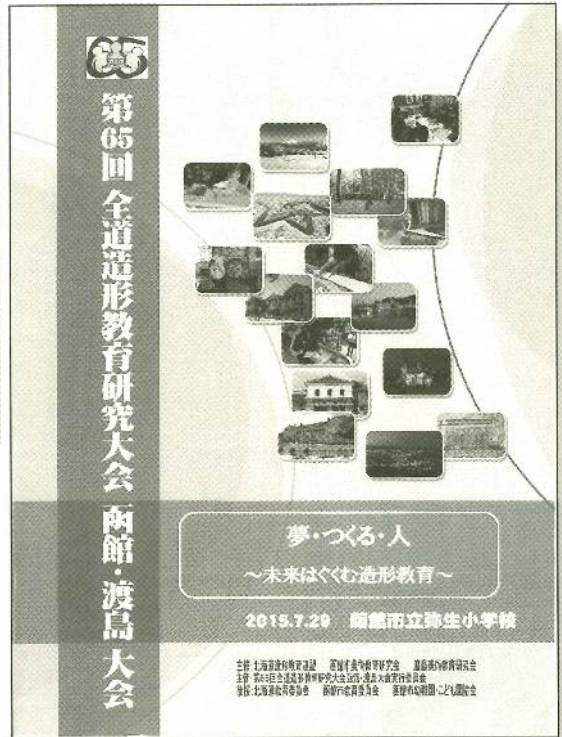


左上：美術館連携
左：造形まつり
右：授業の様子

3 大会の様子

「豊かに生きる力」を目指して、日常の授業実践に生かせる実践づくりを、子どもたちの姿を通して考えることができました。

第65回 函館・渡島大会



1 研究主題について

- 研究テーマ □ 「夢・つくる・人」
- 研究主題 □ 未来はぐくむ造形教育

昨今の世界は、人々をとりまく自然環境や、歴史的、民族的、地域的な社会情勢の変化、ITの進歩とともに、めまぐるしく情報が行き交うメディア社会へと変貌し、人々のコミュニケーション手段もSNSなどの形態へと移り変わるなど、その余波は確実に日本にも押し寄せ

ている。そんな中、全国の初等中等教育の現場では、

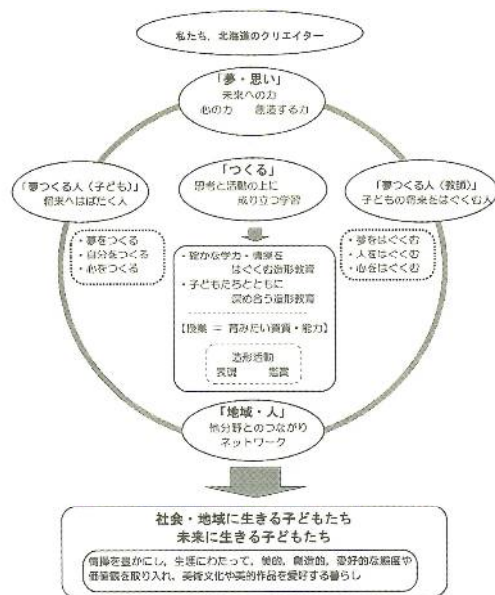
- 開催日 □ 平成27年（2015年）7月29日（水）
- 会場校 □ 函館市立弥生小学校

近年のPISA調査や全国学力調査などの結果を受けて、「生きる力」の理念を継承し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、それらを習得・活用・探究する授業づくりの充実による確かな学力の育成を目指して様々な方策が実施されている。

その結果、一般的には、目に見える形での成果が求められ、テスト等の得点アップが学力向上の成果としてとらえられている状況があると見えよう。しかしながら、図画工作・美術教育における確かな学力とは数値の向上のみを意味するものではないことは周知のとおりである。

すなわち、「目に見える児童生徒の造形的な創造活動を通して、基礎的な能力を高めていく

ことだけではなく、目に見えない思いや心の動きなどに目を向けて、人間にとって大切な情操をはぐくんでいくこと」が、図画工作・美術教育における重要かつ確かな学力といえよう。



今大会では、未来に生きる子どもたちが、このような確かな学力を身につけ、人間性をはぐくんでいくために、これまでの「感性」や「知性」を有機的に関連づけた研究実践をふまえて研究主題「夢・つくる・人」未来はぐくむ造形教育」を設定した。「夢」「つくる」「人」というキーワードを主軸として、子どもたちが自ら創造し、将来に向けて、自分や心をつくっていくことを実感できる図画工作・美術教育を実践していくことで、一人一人の人間性を磨き、

生涯にわたって必要とされる豊かな情操を培っていきたく考えた。子どもたちの将来への架け橋となるような研究実践にしたいと考えている。(研究紀要より)

2 授業公開について

- 素直な造形 く子どもの気持ち分科会
- 育む造形 く学びの気持ち分科会
- ひろがる造形 くつながる気持ち分科会

函館市立弥生小学校を会場に、授業公開、実践発表、研究部提案のアートプロジェクトが行われました。

- 公開授業・・・・・・・・・・五実践
- 北海道 夢ツリープロジェクト
- 実践発表・・・・・・・・・・十一実践
- 講演・・・・・・・・・・一講演

授業者一覧

カラフルねんどで	七飯町立七重小学校	1年	石岡 寿子 船橋 恭二
つながる音画、伝えよう魅力	函館市立桐花中学校	2年	木村 麻岐
想像の塔	函館市立青柳小学校	3年	赤取 慶男
しかべ・アース・アート	虻部町立鹿部中学校	3年	藤本 大介
花火がドドン!	函館短期大学付属幼稚園	年長	清水 里奈 白幡 久姫
北海道 夢ツリープロジェクト	函館市立弥生小学校5・6年 市内美術部		函館・渡島大会 研究部



左上2枚 : 夢ツリープロジェクト
左・下4枚 : 授業の様子
左下1枚 : 地区サークルパネル展示



3 大会の様子

造形活動を通じて、
「社会・地域に生きる子どもたち」
「未来に生きる子どもたち」を育む
実践が展開されました。

第66回 札幌大会

第66回 全道造形教育研究大会 札幌大会

“すき”が輝く造形活動 大会テーマ・研究主題

会期 2016年7月28日(木)・29日(金)
会場 札幌市立新陵東小学校
主催 北海道造形教育連盟
札幌市造形教育連盟



□ 開催日 □

平成28年(2016年) 7月28日(木)
7月29日(金)

□ 会場校 □

札幌市立新陵東小学校

1 研究主題について

□ 研究テーマ □

「すき」が輝く造形活動

子ども一人一人が感性を働かせて
自分にとっての「すき」を表し
たり、感じたりする姿を目指して

札幌市造形教育連盟では、「わたしを創る」
造形活動の在り方を考えました。

子どもは造形活動の中で、自分の思いを形や
色で表したり、対象からよさや美しさを感じた
りしています。それらを通して、新しい意味や
価値をつくりだしていきます。さらに、他者と

それらの共通点や相違点を認め合うことで、豊
かな人間性を育んでいくと思えます。

そのような経験を積み重ねることで、子ども
自身が「わたし」を創っていきます。そして、

自己実現へと向かい自分の人生の豊かさや幸せ
を感じていけるようになると考えます。

教育課程企画特別部会「論点整理」において、
現在の造形教育には、感性などを働かせ、思考・

判断し表現したり鑑賞したりするなどの資質や
能力を相互に関連させながら育成することや、

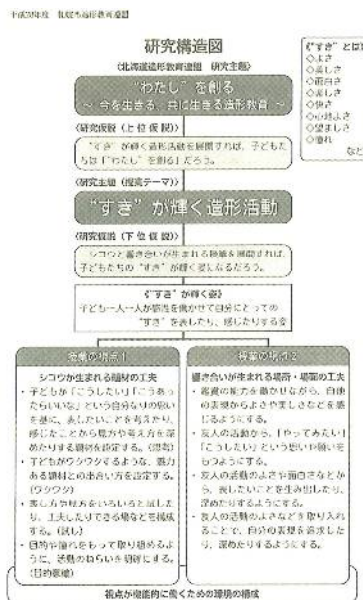
主体的で創造的な学習活動の充実が求められて
います。さらに、生活を美しく豊かにする造形

や美術の働き、美術文化についての実感的な理
解を深め、生活や社会と豊かにかかわる態度を

育成することが求められています。

また、北海道教育大学の阿部宏行氏は、「絵
などの表現は成長に伴って発達し、自己を築く
人格形成の大きな支えとなる」と述べています。

子どもは創造活動を通して、自分はどんな存在
なのかを感じていきます。



そんな子どものかげがえのない時間に寄り添
う私たち教師は、作品という結果からだけでは
なく、子ども一人一人が自己の表現をつくりだ
す過程の学びを大切にします。

私たちは、子どもが自ら思いをもつて表現し
たり感じたりすることから、自分なりの意味や
価値をつくりだす、すなわち子どもが主体の造
形活動を提案します。

そして、札幌市造形教育連盟では、造形活動
を通して「子ども一人一人が感性を働かせて、

自分にとっての「すぎ」を表したり感じたりする姿」を目指します。

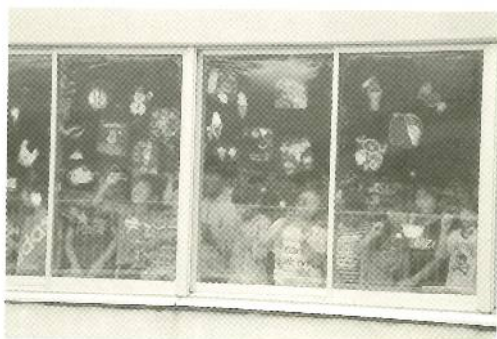
(研究紀要より)

2 授業公開について

視点1 シコウが生まれる題材の工夫
 視点2 響き合いが生まれる場所
 場面の工夫

札幌市立新陵東小学校を会場に、授業公開、実践発表、講演、題材屋台が行われました。

- 公開授業・・・・・・・・・・九実践
- 実践発表・・・・・・・・・・紙面発表
- 講演・・・・・・・・・・一講演
- 題材屋台・・・・・・・・・・十二のブース



左上2枚・公開授業
 左下2枚・題材屋台
 右・授業分科会
 下・公開授業

授業者一覧

子どものまなざしで	札幌市立白楊幼稚園	年長	上田 克美
クリスタル星の仲間たち	札幌市立稲積小学校	3年	三浦 真奈美
ようこそ空の国へ	札幌市立星置東小学校	2年	篠原 貴
感じて！ココロの形・色	札幌市立門山小学校	3年	菊地 惟史
つないでいくと・・・	札幌市立伏見小学校	3年	佐藤 和音
開くとそこにある 自分だけの宝物	札幌市立北都小学校	4年	矢野 宜利
15歳の自画像	札幌市立琴似中学校	3年	武井 りえ
一人一人の窓から見える 造形活動 (ポスター発表)	札幌市立稲穂中学校	特支	久歳 美和子
TOWER OF LIFE ～ 人生の塔 ～	札幌市立あいの里東中学校	1年	寺林 陽子



3 大会の様子

授業が九公開、十の実践発表で大会が大いに盛り上がりました。



第67回 釧路大会

大会要項・研究紀要

第67回全道造形教育研究大会 釧路大会



研究主題
わたしをつなぐ
造形活動の時間
～ 思いを豊かに育む造形活動の展開～

期日 平成29年
7月27日(木)

会場
釧路市立共栄小学校

主催 北海道造形教育連盟/釧路造形教育研究会
主幹 第67回全道造形教育研究大会釧路大会実行委員会
後援 北海道教育委員会/釧路市教育委員会
釧路管内町村教育委員会連絡協議会/釧路市私立幼稚園連合会

開催日
平成29年 (2017年) 7月27日 (木)
 会場校
釧路市立共栄小学校

1 研究主題について

□ 研究主題 □

わたしをつなぐ造形活動の時間
思いを豊かに育む造形活動の展開

今日、情報化やグローバル化など急激な社会変化の中、学校教育に求められていることのひとつに、「子どもたちが未来のつくり手になるために必要な資質・能力を確実に身に付けさせていくこと」がある。新しい学習指導要領では、「子どもたちが自ら感性を豊かに働かせながらどのような未来を創るのか、社会や人生をより良いものにしていくかを考え、主体的に学び続けることで自らの力を引き出し、自分なりに試行

錯誤し、多様な他者と協働するなどして、新たな価値を生み出していくことの重要性が述べられている。とりわけ図画工作・美術科では、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりすることについての資質・能力を相互に関連させながら育成すること、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わろうとする態度の育成などが課題としてあげられている。

芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめでは、身に付けさせたい資質・能力の中心として、各教科の本質に根差した「見方・考え方」が示されている。小学校では「感性や想

像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値を見つけ出すこと」がある。

こうした見方・考え方を働かせながら知識・技能を習得した子どもたちは、見方・考え方が成長することにより思考力・判断力・表現力が高まり、より生活や社会と豊かに関わろうとする姿につながっていくだろう。

釧路造形教育研究会は、これらのことを考え合わせながら、現在の道東地区における造形教

大会を支えた三つの視点

I 「学びをつなぐ」

学びのデザインを意識した題材構成

II 「思いをつなぐ」

思いを育みながら活動できる工夫

III 「他者とつながる」

他者と協働する場の設定



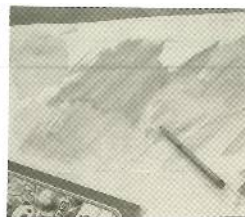
2 授業公開について

☆想いをつなぐ分科会
 ☆他者とながる分科会
 ☆学びをつなぐ分科会

育の現状や課題を明確にし、新しい学習指導要領に関わる教育動向も加味しながら、本研究大会に向けた取組を推進していくこととした。
 (紀要より)

授業者一覧

ぼくたちわたしたちのよしの園の一日	認定こども園よしの	年長	加藤・澤原
ようこそ光の国へ	釧路市立鳥取西小学校	2年	若林 亘
ことばから広がる世界	釧路市立武佐小学校	6年	日野 道子
名画の中に入ってみたら	釧路市立共栄小学校	6年	高野 忠輔
和をつなげよう	釧路市立共栄中学校	1年	楠本 加会
一步を踏み出す靴	教育大学附属釧路中学校	2年	更科 結希
ことばのイメージ ～ミニマルアニメーション	北海道釧路江南高等学校	3年	上野 秀実



左上から

1. 高等学校の授業
2. 幼稚園の活動
3. 小学校の授業
4. 中学校の授業

3

大会の様子

三つの視点を具現化させた
 授業公開と実践発表でした。



第68回 空知岩見沢大会

大会要項・研究紀要

第68回



全道造形教育研究大会空知岩見沢大会

第55回 全空知子どもの作品を語る会岩見沢大会

〈大会テーマ〉

まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育
～ おもう・さぐる・つながる・つなげる～



日時
2018年7月27日(金)

会場
岩見沢市立光陵中学校
岩見沢市絵画ホール
岩見沢市松島正幸記念館

主催 北海道造形教育連盟

後援 北海道教育委員会 北海道教育庁空知支庁

岩見沢市教育委員会 空知校長会 空知美術教育研究会

主管 空知美術教育研究会 第68回全道

□ 開催日 □

平成30年(2018年)7月27日(金)

□ 会場校 □

岩見沢市立光陵中学校

岩見沢市絵画ホール

岩見沢市松島正幸記念館

1 研究主題について

□ 研究テーマ □

「まなざしを共有し、おもいを

つなげる造形教育」

～ おもう・さぐる・つながる・つなげる～

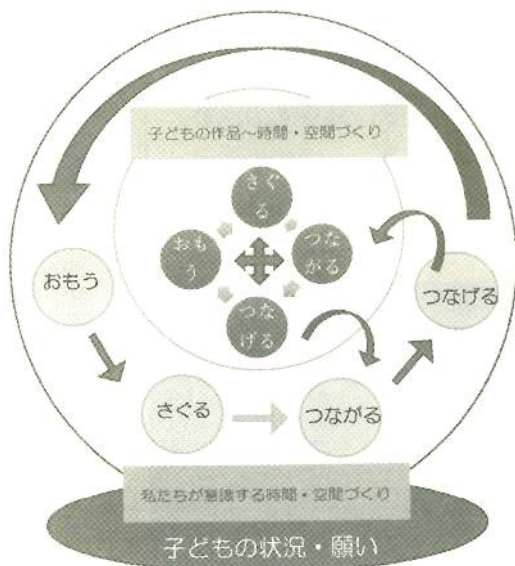
空知では、十五年前に第五十三回全道造形滝川大会を開催しました。この大会では、研究主題を「心豊かに未来に生きる造形教育」とし、キーワードを「ふれあう」「さぐる」「つくりだす」として研究を進めました。

大会のテーマに「まなざしを共有し」という言葉を入れてきたのは近年の「全空知子どもの作品を語る会」のことです。これは、「子ども

と同じ目線に立って、子ども自身の身近な生活の中から創造意欲につながる物事を見つけ出していきたい」という考えからです。

「おもいをつなげる」の「おもい」の中には、主体的な自分なりの願いはらんだイメージである「思い」と、形や色などから相手の気持ちを感じたり受け止めたりすることから生まれる他者(場所や素材や記憶なども含む)への「思い」の二つの意味が込められています。

子どもの表現が、他者と「つながる」ためには、子どもの「おもい」を大切に受けとめる教師や仲間の存在が必要になります。自分と向かい合いながら、伝えたい誰か・何かへ、形や色などに「おもい」を込めながら造形活動を行う



ことは、とてもパーソナルで繊細な活動です。この「おもい」を表現するための試行錯誤の保障は重要であると考えます。

この「おもいをつなげる」ことで、生活や社会の中の形や色などに、それぞれの「おもい」が込められていることが分かり、これからを生きていく力として、互いを尊重し合う学びや人間関係の構築がなされていく一助となります。

また、「子どもの作品」を語るときには、「作品主義」に陥らないためにも、図工・美術の時間と共に信頼関係を含めた空間も「子どもの作品」であることを意識する必要があります。



2

授業公開について

題材を ①おももの ②さぐる

③つながる ④つなげる

四つのフィルターを通して

今年度二〇一八年度は学習指導要領改訂の移行期にあたります。空知美術教育研究会として、管内の各市町村を巡りながら行ってきた研究の場である「子どもの作品を語る会」を基盤にしながら四つの要素①おももの②さぐる③つながる④つなげる整理をしました。(研究紀要より)

授業者一覧

「た・ど・しのわ・た・し」	深川市立多度志小学校	講師	村山 尚子
「コロコロ ベットん」	岩見沢市立中央小学校	1年	大野 寛文
「美術館に行こう！」	岩見沢市立中央小学校	3年	佐々木 紗
「見えるかな ～パッケージのデザイン」	夕張市立夕張中学校	2年	橋本 幸枝
「心の窓 ～未来の私に向けてのエール」	岩見沢市立光陵中学校	3年	三森 彩美
「見える音・聞こえる形・色彩」	岩見沢緑陵高等学校	2年	棚田 将史



左：授業の様子 上：題材屋台
下：分科会・子どもの作品を語る会



3

大会の様子

「子どもの作品を語る会」を大切にしている空知美術教育研究会の確かな取組が子どもの姿として具現化されました。

第69回 道北ブロック大会

第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会

大会研究テーマ 『わたしを映す』

開催日 2019年7月30日(火)
 場 所 旭川市立永山中学校
 主 催 北海道立旭川美術館

協賛
 ○北海道教育委員会 ○北海道教育庁旭川教育庁 ○旭川市教育委員会
 ○旭川市立永山中学校 ○旭川市立中学校長会 ○旭川市立小学校長会
 ○旭川市立高等学校長会 ○旭川市立高等学校長会 ○旭川市立高等学校長会
 ○旭川市立高等学校長会 ○旭川市立高等学校長会 ○旭川市立高等学校長会

1 研究主題について

- 研究テーマ □
「わたし」を映す
- 研究主題 □
自己を見つめ、創造的に表す造形活動

今回の大会では、全道造形連盟の研究主題「わたし」を創るく今を生きる。共に生きる造形教育」を目指す上で、「造形的な見方・考え方」のエッセンス「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくり出すこと（小学校）」「美術科の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方として、表現及び

- 開催日 □
令和元年（2019年）7月30日（火）
- 会場校 □
旭川市立永山中学校
北海道立旭川美術館

鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すこと（中学校）を加え、「わたし」を映す」を研究テーマに設定しました。

「わたし」とは、楽しい気持ちや悲しい気持ちなどの感情を持った自分や悩んだり改苦したりして行動した経験のある自分など過去・現在の自分、またこんな風にしてみたいという思いから生まれる未来の自分など、あらゆる角度から捉えた多面的な自分を指します。「映す」とは、造形活動で起こる全ての行為やつくられる造形物は、子どもの心情、感性や経験など、あ

りのままの姿を如実に映しているものであると考えました。そして、そうした「わたし」が言葉、形、色などを用いて、「主体的に感じ取り造形活動に取り組む姿」「自分の意思で自由に表現を考えて試している姿」「内面と向き合い新たな価値を創造する姿」として子どもたちの姿に表れることをイメージしています。

私たち教師が、子どもの一連の造形行為から楽しさや面白さを感じ取っている姿や、つくる過程で自分なりの意味や価値を見付けたり創り出したりする姿を見出し、それを子どもに返すことで、自分を見つめ直し、造形活動において自分なりの意味や価値を見出し、それを他の造形活動や日常生活に生かそうとする子どもの育成を目指します。

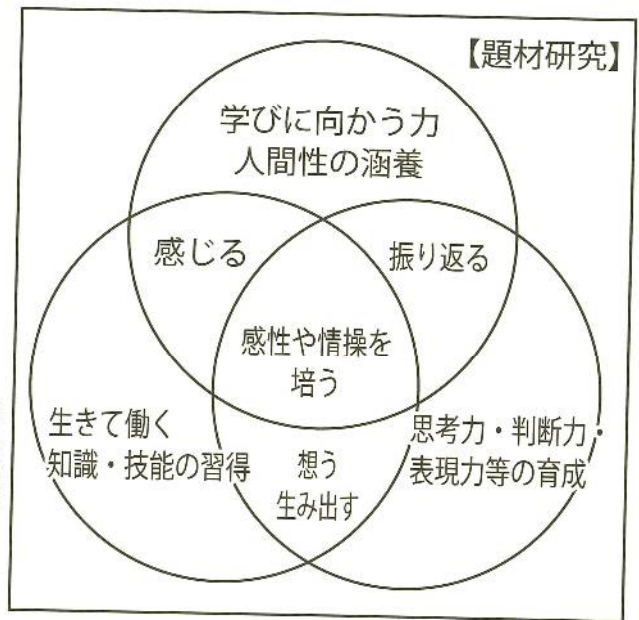
- 深める研究
 - ・ 題材研究 ・ 主体的に表したくなる題材の工夫
 - ・ 指導研究 ・ 思いや考えを基に豊かに意味や価値を創造する学習指導の工夫
 - ・ 評価研究 ・ 子どもの成長を適切に見取る手立て、振り返り活動の工夫

- 旭川市立永山中学校
- 授業公開 ・ 造形まつり2019
- 道立旭川美術館

2 授業公開について

- 深める研究
- 広げる研究

(研究紀要より)



授業者一覧

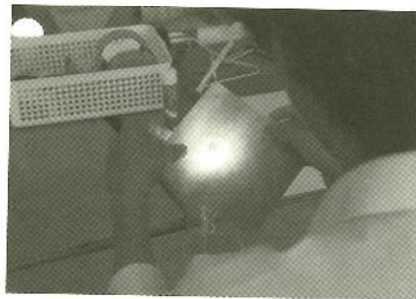
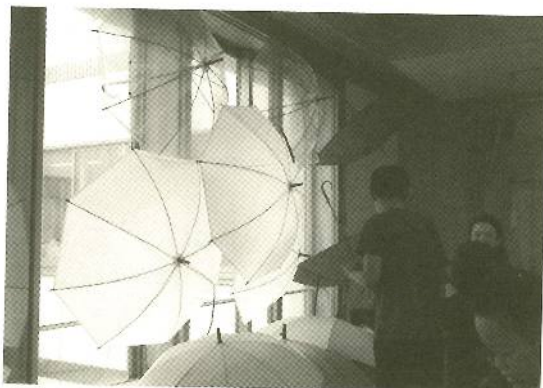
おしゃれな黒ネコ (絵画)	認定こども園白鳥幼稚園	年中	長瀬 萌	つないで つなげて つながれば	認定こども園白鳥幼稚園	年長	新井 美喜
わくわくトンネル (素材遊び)	旭川大学附属幼稚園	年長	阿部 清香	こっぱっぱ はっぱっぱ	旭川大学附属幼稚園	年長	佐藤 羽由佳
大ききなものがたり (絵に表す)	上川町立上川小学校	3年	大山 みのり	ともだちハウス (立体に表す)	教育大学附属旭川小学校	2年	盛永 枝里
ひらいてみると (造形遊び)	旭川市立正第一小学校	6年	佐藤 賢一	版から広がる世界 (絵に表す)	美瑛町立美瑛小学校	5・6年	阪部 あずさ
「わたし」を映す生き物 (彫刻)	比羅町立比羅中学校	2年	東 加奈絵	CMを鑑賞しよう (鑑賞)	旭川市立北門中学校	2年	島本 匡洋
イメージしよう! 抽象表現の鑑賞	北見市立旭川高等学校	1年	河野 日一	心をともすあかり (デザイン)	十勝市立上川中学校	2年	島本 さとみ
彫刻巡回展示出前授業 (鑑賞)	旭川市立永山中学校	3年	杉森 藍 石川 中明 和也 千紘	彫刻巡回展示出前授業 (鑑賞)	旭川市立永山中学校	6年	石川 和也 中明 藍

造形まつり2019

ひらいて広がる世界～仮締め絞り染め	旭川市教育研究会図工美術部	ドリフターズ～海辺で生まれたものたち	留萌地方美術教育研究会
綱でどうしよう	上川造形教育連盟	ゼンタングル体験	十勝造形サークル
飛ばして遊ぼう	北海道飛行機を飛ばす会	子どもの作品を語る会	空知美術教育研究会
何が出るかな?何が出来るかな?	右衛門造形教育連盟	ふしぎないきもの	帯広市教育研究会図工美術部会
ジェスモナイトを使って	釧路造形教育研究会	服を使って	根室造形教育連盟
“題材”の入り口～出口	札幌市造形教育連盟	立体風をつくろう	宗谷造形教育研究会
学校紹介ブース	おといわっふ美術工芸高等学校	彫刻巡回展示 出前授業を体験しよう	旭川市彫刻美術館



左上：美術館連携
左：造形まつり
右・下：
授業の様子



3 大会の様子

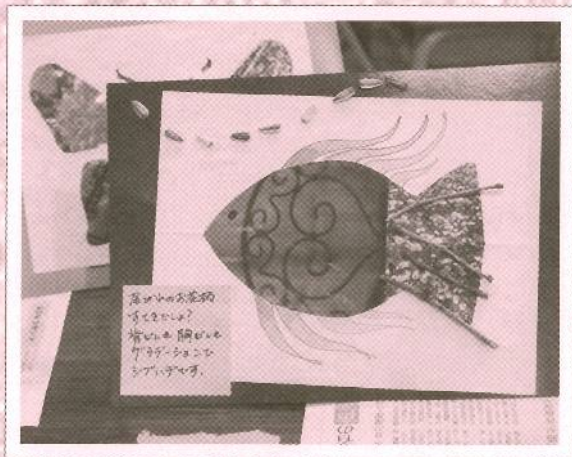
「主体的に感じ取り造形活動に取り組む姿」「内面と向き合い新たな価値を創造する姿」が、たくさんの場面で見られました。

全道造形教育研究大会のあゆみ

年	回	開催地	テ　　マ	委　員　長 会　　長	備　考
1949年			(札幌美術連盟組織 全国図画工作教育講習会)		
1951年	第1回	札幌	情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため	初代 野村 英夫	北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育研究会
1952年	第2回	札幌	図画工作教育の新思想である創造主義美術教育の諸問題について		北海道図画工作連盟創立
1953年	第3回	旭川	美術教育の指導とは何か		
1954年	第4回	函館	図画工作教育実践上の諸問題について		
1955年	第5回	釧路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明		
1956年	第6回	札幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか		
1957年	第7回	室蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について		
1958年	第8回	小樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか		
1959年	第9回	帯広	新段階における造形教育のあり方		北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう		
1961年	第11回	滝川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか		
1962年	第12回	名寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1963年	第13回	余市	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1964年	第14回	札幌	子どもの創造能力とは何か	第2代 新妻 清	
1965年	第15回	稚内	子どもの創造能力とは何か		
1966年	第16回	室蘭	子どもの創造能力とは何か	第3代 赤石 武士	
1967年	第17回	函館	指導の構築を具体化する		
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する		
1969年	第19回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第4代 和田 芳郎	
1970年	第20回	旭川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか		
1971年	第21回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第5代 伊東 将夫	
1972年	第22回	帯広	未来に生きる子どもの造形教育 (生活に根ざした造形教育をどう高めるか)	第6代 高橋 栄吉	
1973年	第23回	室蘭	未来に生きる子どもの造形教育 (たしかな表現力をどのように育てるか)		
1974年	第24回	美幌	未来に生きる子どもの造形教育 (ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか)		第1回教育美術展
1975年	第25回	江別	未来に生きる子どもの造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)		
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもに造形によるこびを)		第1回立体造形展
1977年	第27回	札幌	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践		
1978年	第28回	函館	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きとくむ学習)	第7代 辻 悦平	
1979年	第29回	旭川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方		
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりと深まりの造形教育を求めて		
1981年	第31回	釧路	創りだす心をよびおこす造形教育		
1982年	第32回	室蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第8代 遠藤 久男	
1983年	第33回	留萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動		
1984年	第34回	札幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び)	第9代 種市誠次郎	

年	回	開催地	テ マ	委員 長 会 長	備 考
1985年	第35回	函 館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)		
1986年	第36回	旭 川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)	第10代 森川 昭夫	第39回全国造形教育 研究大会をかねる
1987年	第37回	紋 別	子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現のよろこびにひたる子どもを育てる)	第11代 松島 輝男	
1988年	第38回	滝 川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)		
1989年	第39回	帯 広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)	第12代 金井 秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！		
1991年	第41回	札 幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひろく)	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函 館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)		
1993年	第43回	旭 川	思いをあたため心はずませる創る喜びを	第14代 鹿嶋 健	
1994年	第44回	釧 路	心ときめく、創造の喜びを求めて		
1995年	第45回	千 歳	豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を	第15代 船着 昭弘	
1996年	第46回	札 幌	～造形＝愛感美遊創in札幌～ 自らの心を拓く造形学習の在り方	第16代 白井 園毅	
1997年	第47回	根 室	感性から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 吉田 倭雄	
1998年	第48回	留 萌	楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り添 う指導	第18代 芝木 秀昭	
1999年	第49回	網 走	オホーツク発 思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～		
2000年	第50回	函 館	心の風景(ビジョン)の発信を！ ～豊かな自分づくりを生かす想創活動～		
2001年	第51回	札 幌	風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来 ～(いま)〈ここ〉(わたし)を基軸にして造形の未来をつくる		第54回全国造形教育 研究大会をかねる
2002年	第52回	帯 広	広い大地に紡ぐ夢 豊かな感性をはぐくむ造形教育	第19代 藤井 正治	
2003年	第53回	滝 川	つくる喜びを実感できる造形教育		
2004年	第54回	旭 川	豊かに感じ、おもいをふくらませあらず喜びを 生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～	第20代 冨田 泰	
2005年	第55回	函 館	めざめる感性(こころ)きらめく個性(かたち) 地域空間がいざなう造形活動のひろがり	第21代 今 裕子	
2006年	第56回	札 幌	楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育		
2007年	第57回	釧 路	「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて ～つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育～		
2008年	第58回	北広島	豊かな心と確かな力を育む造形教育を!	第22代 菅原 清貴	
2009年	第59回	旭 川	身体で感じ・心はずませ・創造する喜びを ～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて		規約改正により委員 長を会長に改称
2010年	第60回	函 館	創造!ときめき!実感! ～感性と知性の出会い心うるおす造形活動～		
2011年	第61回	札 幌	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～		第64回全国造形教育 研究大会をかねる
2012年	第62回	帯 広	つくるとき・つながるとき ～豊かな心をはぐくむ造形教育～	第23代 稲實 順	
2013年	第63回	石 狩	豊かな心と確かな力を育む造形教育 ～子どもの「こうしたい!」があふれる授業を通して～		
2014年	第64回	旭 川	『「わたし」の喜び』あふれる造形活動	第24代 安木 尚博	
2015年	第65回	函 館	夢・つくる・人 ～未来をはぐくむ造形教育～	第25代 三井 哲	
2016年	第66回	札 幌	“すき”が輝く造形活動		
2017年	第67回	釧 路	わたしをつなぐ造形活動の時間 ～想いを豊かに育む造形活動の展開～	第26代 阿部 時彦	
2018年	第68回	岩見沢	まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育 ～おもう・さぐる・つながる・つなげる～	第27代 森長 弘美	
2019年	第69回	旭 川	『「わたし」を映す』		道北ブロックにて開催

寄せる言葉



『石造連の研究大会を 振り返って』

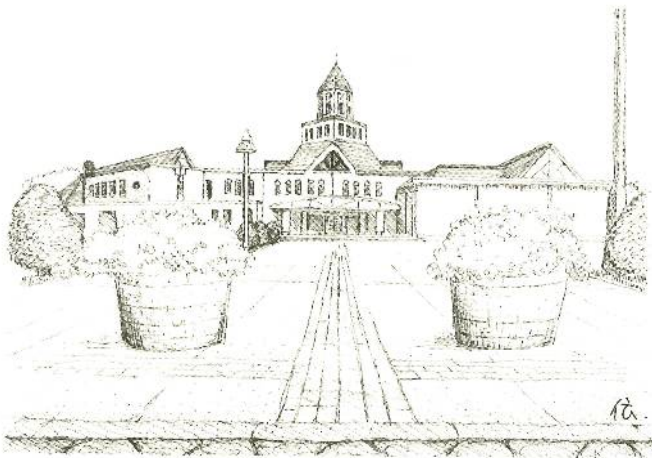
伝 住 修 一

(元 石狩造形教育連盟 委員長)

十年以上研究大会を開催していなかった石造連に、久し振りに研究大会の話があったのは、授業時数が減少し続け、美術が選択教科になるのではないかという、図工美術が軽視される教育界の危機を感じていた頃でした。それ以前、全道連で決議文が採択されたり、陳情書が提出されたりしたこともありました。同時に、現場では「図工美術の指導がよくわからない」という声があり、中学校では免許外で授業をする教師が増え、保護者や地域はもちろん、教師に対しても図工・美術の意義を発信する必要があるということが、仲間内では話題になつていっている頃でもありました。

当時の研究部長、山崎正明先生（現・北翔大学教授）が、「全道の全ての学校、全ての教師に案内をしよう」と会議で提案したのは、そんな状況を打破したいという強い思いからでした。来てもらう以上、どんな研究大会にし、どんな内容を提供すべきか、石造連の会議は何度も行われ、時間はあつという間に過ぎていきました。その結果、案内状を「図工美術の基礎を学べる研究会」と銘打ち、全道に発送しました。研究主題は「豊かな心と確かな力を育む造形教育」。

豊かな心を育てるために「心を育てる題材」を提唱し、育みたい力を「子どもの言葉」として具体化して授業のイメージ化を目指しました。おかげさまで、二〇〇八年北広島大会は成功裡に終了し、それは五年後の石狩市での大会でも継承され、「子どもの『こうしたい』があふれる授業を通して」が研究主題に加えられました。私達、図工美術に携わる者の願いは、教科の時数が増えること。それは、学校教育を豊かにし、子どもの生きる力になります。今後も北海道造形教育連盟の皆さんが教室で、「今日の図工は楽しかったよ。」「美術の時間、あつという間だったね。」という、子どもたちのための授業実践に励まれることを期待しています。



『七十周年に寄せて』

富 田 賢 司

(元 北海道造形教育連盟 副会長)

定年退職後、第六十六回の札幌大会では助言者を務めさせていただいたが、これを最後に教育美術展などの連盟のお手伝いもせぬまま今に至り、反省しきりである。

そんな私も今年、連盟の七十回には少し及ばぬが六十九回目の誕生日を迎えた。振り返ると美術教師としてのスタートは上川管内の当麻中学校であった。その年、管内のたった一人の美術の新採用者だったこともあり、研修会では指導主事をはじめ、図工・美術の先輩方から時間をかけた丁寧なご指導を受けることができた。余談ではあるが、お酒の入った研修も教師の本音が聞けたような思いで新米教師にとって最高にありがたかった。

札幌市に異動になり、八十四年の第三十四回の札幌大会では中学校の絵画分野の提言者になった。「勉強になるから。」の先輩の一言で決まった。

「表現のよろこびのある授業」を教師と生徒の両面からとらえ、生徒の変容の姿から、教師の指導の工夫や手だてを考察するといった札幌美術部会の共同研究の内容であった。当然、「生徒の変容」を明確におさえることは難しく、

提言が情意の部分に踏み込んだ点について旭川や上川の先輩から厳しい指摘や指導をいただき、本場に「勉強になった」。

また、「風よ大地よ夢よ 北からはじまる造形の未来」を合い言葉に開催された第五十一回札幌大会では、研究紀要・大会集録の表紙のデザインのお手伝いをさせていただいた。夏と冬のそれぞれ趣の異なる「美瑛の丘」の写真が懐かしく思い出される。

教え子の一人が美術教師となり、大会の公開授業で子ども達と共に輝く姿を見せてくれたことは、幸せなことであった。

新型コロナウイルスの感染拡大による大会中止に心痛むが、オンラインによる実践交流など、歩みを止めない先生方の逞しい姿に期待が膨らむ。

連盟の次代に向けた更なる発展と充実を祈念する。

『造形教育の出発点は

幼児教育から』

増毛町立認定こども園あつぷる

園長 齊 藤 友 昭

(元 留萌地方造形研究会 会長)

こども園（幼稚園と保育園の機能）という幼児教育施設に勤め、幼児教育について日々学び現職時代の不勉強さを思い知らされ、幼児教育は造形教育や創造的活動につながっていると実

感しています。小学校低学年担当時のことを思い出すと、幼児教育による遊び（総合的な活動とも言える）が、造形教育の出発点になっていると強く感じています。

現在の幼児教育のポイントは、

○自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へ相応しい関わり方を身に付けていく

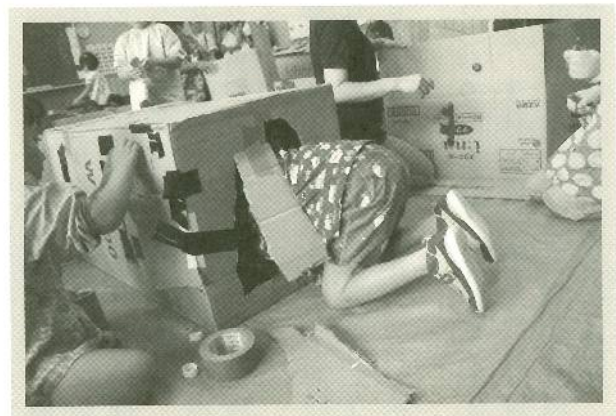
○主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができる状況を作り出すです。

いずれの文も「自ら」、「主体的に」と能動的な表現になっています。これらの言葉は、昔から学校でも使われてきましたが、最近は特に重きを置いています。近未来的にAIなどのICT活用の加速化で残る職業は人間関係を相手にする仕事やクリエイティブな仕事が多くなると言われ、自ら創り出す、自ら動き変化する能力の基盤となる主体性に力点を置くという論理のようです。「造形教育はこの創造的能力を育てる鍵と言っても過言ではない。」と言え、その基盤は幼児教育にあると確信しています。

全道大会を何回か経験した時、幼稚園から高校までの公開授業と分科会がありました。自分で勤めている小学校分科会以外、興味関心が無かったことを今更ながら恥じています。

年を経て様々なことを見聞きし学び続けることで見えなかったことが見えてきたのかなと思います。

今の学制上仕方ないのですが、指導にあたる先生方にはできる限り早く、広い視野に立った意識を持ってもらいたいと強く思うこの頃です。



『豊かに学べた日々』

土井善範

(元 札幌市造形教育連盟 会長)

私は既に現役教師を退いている身だが、(勿論、退職しても会員である)何と造形連盟が七十周年を迎えるという事実を聞いて、私が生まれる前からすでに会が存在していたのだということに心の底から驚き、あらためて本当に凄いことなのだと思ふし、いろいろな先生方と出会い、共に働き、刺激しあいながら充実した日々を過ごしてきたことを懐かしく思い出します。

私が「造形」という素晴らしい世界、自分から夢中になつて線・形・色に浸っていることを自覚し、まさに造形の「モノリス」に触れたのは、五歳ごろのことと記憶しています。新聞広告チラシの裏に毎日クレヨンで自由に描く開放感は感覚としてずっと体の奥に残っています。運良く、小学校で担任が可愛らしい図工の先生(図工の時間に他校の多数の先生方が参観。これって研究会かな?)だったので、益々夢中になり、褒めて貰ったことが嬉しくて、今度は自分も先生になりたい等と思つたのでした。

図工の教師として「造形」に深く関わるようになったのは、新卒の創成小学校で授業公開をすることからです。助言者の先生の煽りに乗せられて、すぐに北海道造形教育連盟の会員と

なりました。今でも懐かしく大変勉強になったのは「指導の構築」の改訂作業でした。「指導の構築」をご存知ですか。一度は手に取ってみて頂きたい造形連盟屈指の創作物とされています。私は図工教師として何十年もやってこられたのは、作成作業に関わり造形教育の体系を大まかに把握できたからだと思います。作成過程で、自分の担当学年の前後の学年との「造形能力表」での突き合わせ、発達段階が幼児から中学・高校に至るまでの系統表を一字一句、細部まで検討した経験のお陰で、それからの授業の構築が深まったように感じます。年度毎に、時折修正を加えながら使い続けてきました。造形連盟に関わることで、豊かに学べたと実感しました。

この会は、お世話になつた多くの先輩たち、(私を含め)同時代の仲間、そして今まさに造形教育に深い愛情と弛まぬ努力を積み重ねてきている現役教師の会員の皆さん一人ひとりの多様な糸から紡ぎ出された一枚の織物に似ていると思います。一つひとつの小さな歩みが一年また一年と積み重ねられ、七十年という時を刻み、歴史を創つたのだと思います。あくまでも振り返ったら、そうであったと言うことでしよう。繰り返しや踏襲を疑い、時代の核心を鋭く見抜いて、その時代時代に必要な課題や目標を明らかにして進んできたからこそ続いてきたものと思います。

これからも共に、研鑽を積んで行きたいものです。七十周年おめでとうございます。



『「まずまずの出来」を喜ぶこと』

岡澤 邦彦

(元 北海道造形教育連盟 副会長)

学校では「○か×か」「出来るかできないか」というデジタル的な評価観が根強いかもしれない。白黒をはっきりさせない評価は嫌われるかも知れない。しかし、図工や美術では○とも×とも言えないのが正直なところであろう。子ども達が意欲的に制作すれば作品は必ず「まずまずの出来」になるのであり、そこには満点も無ければ零点も無いのである。

その昔、私が美術を教えていた頃に、生徒の作品を評して「まずまずの出来だね」と言うと、生徒が「まずまずって何ですか」と聞き返してきたことがある。その先は覚えていないが、多分そのよさを具体的に語ったのであろう。

全ての表現や鑑賞は教師の力量に掛かっている。だから教師は指導と評価のための修練を欠かしてはならない。では、どのように修練すればよいか。その答えは「全ての芸術を反として感性や技量を磨くこと」である。他には無い。

私は若い頃から美術の基礎を徹底して習得してきた。そこで重要だと確信できるのは「教師自らの表現力や鑑賞力を鍛えること」である。デッサン力を磨けば指導力は必ず向上するのである。

しかし、それだけでは子ども達の力を十分に伸ばすことは出来ない。人間的な素養は勿論のこと、さらに幅広く、できるだけ多くの芸術を体験し、造詣を深めること。それが子ども達を「まずまずの出来」に導く鍵なのである。

私はいろいろな美術のほかに、音楽も続けてきたし、俳句も趣味としてきた。最近朗読にも挑戦している。特に秀でたものは何もないが、それぞれ「まずまずの出来」だとは思っている。

これからの造形教育を担う若い方々には、子ども達の「まずまずの出来」を心から喜んであげてほしいと願う。



『現役を退いた今』

橋 詰 博

(元 北海道造形教育連盟 副会長)

三井会長の下、数年間副会長をやらせていただきました。現役を退いた今、改めて造形教育連盟に携われたことを光栄に感じるとともに感謝しています。旭川や函館等の大会にも参加さ

せていただきました。道内各地で造形の先生達が日々の実践に努力している姿を拝見できとても心強く感じたことを思い出します。実は地味なんですよね。日々の実践って。図工・美術の教師一人にとっては毎日の授業のちよつとした工夫や、アイデア等はそれほど大きな変化ではないですよ。ただ、その積み重ねが大きな変化につながっていくものと感じています。

今、私は美術教師をやってこられたことを快く振り返ることが出来ます。元来、組織に属することが嫌でしたし属していても幽霊部員的な私でした。組織が掲げるテーマや研究目標等はありません。組織がなく、ほとんどが我流の教材研究であり授業でした。まさに若気の至りでした。そんな自分でしたが、造形教育連盟の先生達との交流を通して、言っていることはよくわからなかったのですが(笑)、熱く造形教育を語るその真摯さに触発されたのを覚えています。

七十年にもなるんですね。私が生まれるよりも前に立ち上げた先人達の想いが、現在も脈々と受け継がれ全道各地ですそ野を広げている様は本当に凄いことだと思います。利益があるわけではないし、名誉を与えられることでもない。ただただ造形教育のすばらしさに魅せられて活動している先生たちに敬意を表したいと思っています。そして幼稚園から大学までと職種に限らず門徒を開いている組織のありようが活動の奥深さにつながっているのだらうと感じます。目の前にいる子ども達に図工・美術の素晴らしさを問うて、連綿と引き継ぎ浸透させてきた造形教育連盟にかかわられて本当に良かったと思っています。

『やっぱり、図工は楽しいです』

札幌市立月寒小学校

伊藤 正敏

(元 札幌市造形教育連盟 会長)

授業をする側ではなく、見る側になって幾年月。さらに退職が近づくと、無性に子どもたちと授業がしたくなりました。一年生の先生たちに頼み込んで絵の具の使い方を教えることができました。開成小では各教室でそれぞれのクラスごと。豊平小では体育館で学年合同で。清田小では水道が使える多目的室で行いました。

一年生に絵の具の使い方を教える最初の授業です。筆で絵を描く時間を多くとるため、説明は極力短時間で済ませなければなりません。それには映像が一番です。準備の仕方や使い方をデジカメで撮影し、パワーポイントにまとめました。私の絵の授業では机は使いません。椅子を裏返して寝かせ、椅子の脚に面板を置きます。つまり子どもたちは、床に座って絵を描きます。全部の色を順番に使って、お日さまを描きました。このスタイルは、有明小から始めました。有明小は一学年二十人以下の小規模校です。子どもたちが教室で輪になって、輪の外側を向いて座ります。この座り方では、後ろを振り返ると全員の絵を見ることが出来ます。会話をすることなく、自然に子どもたちがお互いの作品から新たなアイデアを生むことができます。あ

のときの授業の面白さや楽しさをもう一度味わうことができました。



同様に、造形連盟の仲間からたくさんの刺激をもらい、授業実践に生かしてきたのですが、最後の最後、退職の年に札幌で全道大会があり、その実行委員長をすることになったのは運命なのでしょう。

その数年前から造形連盟では、組織の在り方が議論されてきました。今後求められる学校教育の中で、図工美術教育はどうあるべきか。これは教員の数に即結びつきます。授業時数が減

るとその授業を行う教員も減ります。美術教員が減ることは、連盟の会員の減少につながり、連盟の活動内容の縮小につながるからです。会員の減少と大会内容の精選化、そして会員のニーズの多様化にどう対応するのか。頭が痛くなりました。

さらに連盟の活動は、多岐にわたっています。学校教育だけでなく、社会教育、さらには文化芸術活動への貢献として、北海道や札幌市および各区の行政機関との連携、雪まつりの絵や中島公園や北海道神宮の写生会等外部団体への支援など、以前より数は少なくなりましたが、いろいろなどころから協力要請があります。連盟のマンパワーが発揮されていたのです。私も審査会や表彰式に数多く参加しましたが、どの会にも連盟の仲間が休みを返上して駆け付けていました。連盟の教育美術展の開催一つをとっても、その準備や運営にかかる労力は並大抵のものではありません。本当に好きでなければできないことです。皆さん、本当にありがとうございます。

そして今、再任教員として四年目を迎え、五年生に理科専科指導をしています。でも、再任用面接のとき、人事課長に「本当は図工の専科がやりたい」と希望を伝えたら、図工の授業をさせていただけそうな学校に着任させてもらいました。校長先生より先生たちに紹介していただき、時々図工の授業に参加させていただきました。何より、補欠に入ったときに図工の授業を任されるのが一番うれしいです。やっぱり図工は楽しいです。

あと一年、もっと図工の授業に参加できることを期待しています。

『釧路での全道大会の 思い出』

釧路市立大楽毛小学校

小野 三枝子

(元 釧路造形教育研究会 会長)

教員となって四回、釧路で開催された全道造形教育研究大会を経験することができました。思い起こすとそれぞれの大会が教員人生の節目の時期と重なっていたように感じます。

一度目は昭和五十六年の大会で、教壇に立つて二年目の新米でした。先輩の先生からの勧めもあり、参加した大会。子ども達や先生方の熱心で活気ある雰囲気「すこいな。」と素直に感じたことを覚えています。

二度目は平成六年の大会で、授業をさせていただきますました。教員として十四年目でしたが、分科会ではたくさんのご批判をいただき、造形教育に対する自分の認識の甘さを痛感するほどの苦い経験となりました。反面、教員としての自分のあり方を考え直すよい機会ともなりました。三度目は平成十九年の大会です。学校現場では教頭となり、大会役員の一人として運営に携わりました。当時の宝輪実行委員長の下、大会のあり方について何度も検討を重ねました。「釧路スタイルの実践事例集」を作成するなど、授業者や参加する方々にとつてよりよい研究会を目指し、懸命に取り組みました。

最後は平成二十九年の大会。私自身退職の年

で、図らずも実行委員長として大会を迎えることになりました。会員の減少もあり、「授業」に焦点を当ててシンプルで充実した研究会を構想し、事務局長の杉山先生、研究部長の更科先生とたくさん悩みながら準備を進めました。当時の連盟役員の阿部会長や東事務局長をはじめ、たくさんの方々のご理解とご協力があり、研究大会を終えることができました。支えていただく方々があればこそこの大会だということを本当に実感した大会でした。

一人の教員として、造形教育に携わってこられたことが私の財産です。

『No art, no life』

北海道教育大学

加藤 雅子

(元 札幌市造形教育連盟 会長)

ちよつとカッコつけたタイトルですが、実際のところ今も、昔も、これからも結局のところ、この心情はこの齢になっても変わっていないのです。というか、長く生きれば生きるほど、その思いは強くなっていく気がします。

造形教育連盟とのかかわりも、四十年近く前、千歳の中学校の新米美術教師になって以来。アナログからデジタルへ、怒涛のように時代も変わり、表現の世界の枠組みも随分と変わりました。でも、その底にあるものは、感性や想像力

が揺さぶられ、表現したり鑑賞したりする、豊かな世界の探求であることに変わりありません。私はアートの作家ではなかったけれど、子どもたちと造形活動をずっと一緒にやってきたおかげで、とてつもなく楽しい教師人生を送ることができました。

アート(＝造形活動)は人と人を比べたり優劣をつけたりするものではなく、あるがままの子どもの姿の「かけがえのなさ」をいつも私に教えてくれました。高慢な教師面を叩き壊し、共にいること、まなざしを重ねることで広がる夢の世界を与えてくれました。誰の意見が正しいとか、間違っているとかを問われる時、自分の感性を信じる力さえも私はアートの授けてもらっていました。

そして、何より幸運だったのは、そんなことを分かち合う仲間がいつもいたことです。造形教育連盟はそんな貴重な、私の古巣です。本当に、いつの時代も凄いなたちの集まりでした。そこにいとワクワクする何かがありました。職員室では少しばかりはみ出し気味の私も「自分が自分でいられる」癒しの場でもありました。現在、コロナ禍の最中です。そんな時こそ、感性や想像力の大切さは本当に大きいと感じます。

多くの制約がある中ですが、ここを耐え忍び、対話し、共に時代を生きる連盟の仲間たちのつながりが脈々と繋がっていくことを願っています。

『一期一会』

藤 森 久 美

(元 札幌市造形教育連盟 会長)

教師としての第一歩を踏み出したときは、無我夢中の毎日でした。当時のことを思い出すたびに、自責の念にかられます。初任校で、一から教師としての心構えや学級経営、授業のあり方など、そして「人」としてのあるべき姿など、多くのご指導をいただいた方がいます。その方は、今は亡き「長津 喜代」先生です。厳しさの中にも温かみがあり、私にとって職員室の「母」でした。不器用で、要領の悪い私を根気強く、見守ってくださいました。長津先生がいらっしゃらなかったら、学校現場から離れていたことでしょう。

その年、長津先生にご指導いただいた「学校から見える風景」の作品を「北海道教育美術展」に応募しました。このときに、長津先生からは、その子にとつては世界でたった一枚の大切な絵であることや教師の関わりの重要性など、「絵」に関わる多くのご助言をいただきました。そして私の学級の一児童が「奨励賞」を受賞したという知らせが届きました。その児童やご家族の皆さんが大変喜んでいたことを覚えています。学習や生活面では目立たず、お友達に優しい子でした。表彰式では目を輝かせながら、満面の

笑みで賞状を受け取っていました。

長津先生は教務主任として、遅くまで仕事をされ、多くのお仕事を抱えながら私の指導教官を担当され、連盟では重責を担われ、お忙しい毎日だったように記憶しています。何一つ、恩返しができなかったこと、感謝の気持ちをお伝えできなかったことが悔やまれます。

「長津先生、先生ならどのような指導・支援をされますか。天国ではゆっくりとお過ごしください。ありがとうございます。」

『七十年の歩みに感動』

札幌市立伏見中学校

校長 勝 田 真 塩

(札幌市造形教育連盟 会長)

そこから研究の灯は広がり、札幌市造形教育連盟は平成六年に発足し、札幌市の子供たちの豊かな成長を願い、子供の姿、子供の学びに焦点を当てて研究を進めてきました。ここ二、三年は、令和三年に予定されている全国大会札幌大会に向けて、小・中学校での研究授業を軸として研究を推進しています。札幌のよさは若手を中心となった研究活動です。ワイワイと皆で授業づくりをすることや子供の姿で検証することを大切にして実践的研究に取り組み、成果をあげてきたと思います。また、夏や冬の「造形広場」や「作品を見る会」、「さつぞう会議」改め「さつぞうスキルアップクラブ (SSC)」では、教材や題材の研究、指導と評価、学習指導要領についての研修など、その時々の方のニーズに合わせてフレキシブルに活動を行ってきました。私自身、初めて参加した時は、その和やかな雰囲気と真剣な話し合いの取り合わせに少々戸惑った記憶があります。そして、札幌がそのような自由な研究活動を展開できたのは、北海道造形教育連盟の支えがあったからと考えています。今後も、子供たちのために、ともに楽しく研究活動を進めていきたいと願っています。

北海道造形教育連盟創立七十周年という大きな節目を迎えられたことに、心からお祝い申し上げます。七十年前というと高度経済成長期が始まる直前で、「もはや戦後ではない」というフレーズに象徴されるように、上向きの活力が溢れ始めたころでしょうか。そのような中、新しい造形教育を通して子供たちに表現の喜びを味わわせ、心豊かな人生をつくってほしいとの熱い思いから本連盟が生まれたのでしょうか。そう思うと、改めて諸先輩の情熱と行動力に心を打たれます。

『同士』

岩見沢市立中央小学校

主幹教諭 中澤孝仁

(空知美術教育研究会 会長)

「絵画は見られる詩である」

ダ・ヴィンチのその言葉を知った学生時代、描くことが苦手な私は、何とか作品に興味を持たせようと奮闘した。わかりやすく色調を変えたり、わかりやすくデフォルメしたり、またはわかりやすい素材を使ってみたり……。しかし、どれ一つ満足できる作品を作ることができず、言葉の意味も理解できぬまま大学を卒業し、教員となった。

「美術教師」という肩書はあるものの、絵を描くことが苦手な私に、居場所と研修の機会を与えてくれたのが空知美術教育研究会と北海道造形教育連盟の仲間たちであった。

毎年七月下旬、全道各地で行われる研究大会は、同じ志をもつ同士の集まりということもあり、私に多くのことを教えてくれた。毎年新たな出会いがあり、新たな学びがあった。

持ち寄った作品を見ながら交流する際には、制作した子どもが「今ここにいる」と思わんばかりに熱弁を振るって説明する姿や、子どもの置かれた環境や制作を通じた変容を語る様など、まさに「子どもの心に寄り添った指導」を日常的に実践している教師の姿がそこにあった。

それらを参考に、自分も実践してみる。子どもたちの言葉を聞くと、それまでに気付かなかった画用紙の角に描かれた小さな模様に大きな意味があったり、長い時間が一枚の絵の中に表現されていたりする。そして、それを知ってから絵を見返すと、それまでとは全く違う絵に見えてくるから不思議だ。子どもの絵にはストーリーがあったのだと改めて気付かされた。

それから約二十年。今では、職場の教員に全道の仲間の実践例とともに、「子どもの絵には、色や形を見ただけでは理解できない。」と伝えている。

廊下の壁面に並ぶ、個性豊かな子どもたちの作品を見ながら、描かれた子どもたちの思いを推察する。



『幻に終わった…第七十回の
函館・渡島・檜山大会』

乙部町立乙部小学校

校長 谷口光伸

(檜山造形教育研究会 会長)

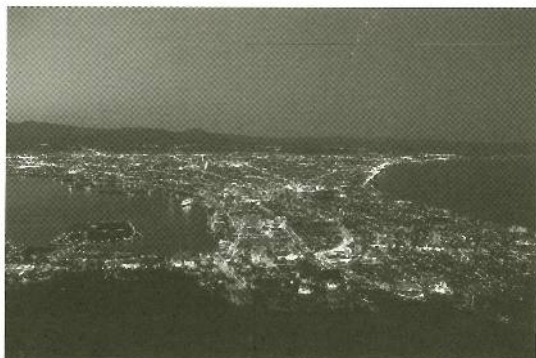
七月十一日(上) 道立函館美術館で《道産子追憶之巻》を主作品に開催された教員のための鑑賞研修会に、現函館美術会長の仲井氏、大会事務局長の木村氏と共に参加しました。

本来であれば七月二十八日(火)、全道から多くの参加者を募り、主会場：函館市立巴中学校、授業会場：道立函館美術館、巴中学校として、授業六本(幼一本、小三本、中二本)、提言六本、文部科学省初等中等教育教科調査官小林 恭代氏による記念講演会、夜には五島軒「王朝の間」にて閉会式も兼ねながらの歓迎レセプションの予定でしたが、コロナ禍によりやむなく中止。私が函館にいた三年間の大きな仕事の一つが消え去りました。

今回、幻となった大会のメイン授業の一つが、美術館とタイアップした《道産子追憶之巻》を用いた鑑賞学習だったのです。事前に鑑賞学習支援ツールにて道産子追憶之巻について学習した後、実際に本物と対峙した子どもたちの反応を見ていただきました。準備に数年を要し、各方面からの全面的ご理解とご支援をいただきながら第七十回大会に合わせて、函館美術館にて《道産子追憶之巻》の特別展を開催する

運びとなったのです。改めて作品を目の前に、このプロジェクトに一番奔走した木村大会事務局長の「やりたかったなあ」の一言に、掛ける言葉が見つかりませんでした。

振り返りますと昨年度の熱き道北ブロック大会のレセプション会場にて連盟旗を受け取り、高揚感と心地よい酔いの中、七十回の節目の大会を成功裏に終えることができるよう準備に万全を尽くそうと決意したことが遠い昔のように感じられます。しかし後ろを振り返り向いてばかりはいられません。先行きは未だ不透明ではあっても新たな生活様式のもと、前を向いて一步を踏み出したものです。



『連盟の研究大会で いただいた「宝もの」』

函館市立南本通小学校

木村 伸 仁

(函館市美術教育研究会)

二〇二〇年五月初旬、第七十回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会の中止が正式に決定しました。私は大会事務局に携わっておりましたので、仲間とともに準備してきた苦勞が報われなかったのは本当に無念でした。と同時に「道北大会の先生方に、あんなに応援してもらったのになあ。」「道東の先生方も、『行くよ!』と言ってくれていたのになあ。」「札幌の…、石狩の…、空知の…(等々)、みんなに会いたかったなあ。」、たくさんの人たちの顔が思い浮かびました。

そこでふと思ったのが、私たちが連盟主催の全道造形教育研究大会で得る一番大切な宝ものとは、実は「人とのつながり」ではないか、ということなのです。

思えば、今回の函館・渡島・檜山大会も、函館市美術教育研究会・渡島美術教育研究会・檜山造形教育研究会の三団体が協力して準備をしてきましたので、檜山造形教育研究会とは新たな人とのつながりも生まれました。また、函館美術館との連携も深めることができ、「道産子追憶之巻」の実物を展示する特別展を、なんと今回の大会に合わせて企画してくださるという

最大級のご協力もいただきました。これは、道教委で作成したアートパネルの鑑賞授業とリンクさせ、アートパネルの鑑賞授業を経験した子どもたちが「本物と出会って心を震わす瞬間を見届ける授業」を作りたいという、我々教師と美術館の方々の思いが重って実現した、三年以上の準備期間を要した夢のような企画でした。ですから、コロナの感染拡大により大会が中止に追い込まれたのは本当に無念としか言いようがありませんでした。

私は、今までの全道造形教育研究大会に参加したり、準備したりした中でいただいた「人とのつながり」を大切な「宝もの」とし、これからも連盟の皆様のお力添えを頂きながら、この「宝もの」をさらに大きく育てていきたいと思えます。

『新しい時代の 造形教育を目指して』

美瑛町立美馬牛小学校

校長 吉 中 博 道

(上川造形教育研究会 会長)

この何年間か学生さんの前で話す機会を頂いているのだが、そこで最初に学生さんに「図工科の思い出」を書いてもらい、その後の講義のネタにさせてもらっている。残念なことに、そこには「図工が嫌いだった」と書く学生さんが少なからず含まれている。嫌いだった理由はシ

ンブルで、「絵が上手に描けなかったから」というものがほとんどだ。このことを足掛かりに、図工科の目標や指導の手立て、評価の仕方などと講義を進めるのだ。

「図工の時間は、美術の時間は自由な表現の喜びを味わう時間であって上手な作品を作らせる時間ではない」というのは北海道造形教育連盟の基本的なスタンスであって、昨日今日始まったものではない。それでもまだまだ図工嫌いは生み出され続けているのが残念でならない。少しでも多くの先生方に造形教育に興味をもってもらって、共に学んでほしいと願う所以である。

七十周年のこの年は残念ながら北海道造形教育研究大会が中止になってしまった。しかし、上川・旭川ではリモート会議などを使った研修を積極的に行っている。きつと、それぞれの地域で子どもの為に先生方は研鑽を積み続けていることだろう。

これまでも、これからも、北海道造形教育連盟は図工・美術の時間がすべての子どもにとって楽しい時間ができるよう、連携を深めていきたいものだと思う。そのためにも、全道的な研究推進の方法も模索していかなければならない。

新しい時代の北海道造形教育連盟に向けて、気持ちも新たにしていきたい。

『共に、熱意と意思を 紡ぐ活動を』

稚内市立富磯小学校

校長 中野 悟

(宗谷造形教育研究会 会長)

まずは、北海道造形教育連盟の創立七十周年
にお喜び申し上げる次第です。

私は現任校に令和元年四月に赴任しましたが、宗谷は初任時代の勤務地で、また、早速に宗谷造形教育研究会の立ち上げも関わらせて頂くこととなり、縁というものを強く感じました。加えて、その年には全道大会が道北ブロック大会という枠で開催されました。宗谷からも運営協力を含めた参加をすることとなり、大変意義深いことでした。実行委員会の方々からのご配慮なども嬉しく思いました。

個人的に記憶を辿ると、全道大会は昭和六十二年旭川大会が初めての参加でした。教師としてまだまだ駆け出しで、発想構想段階での指導のヒントを求めていることが参加の動機でした。自分にとっての答えは明確に得られませんでした。研究大会は学びの提言と主題に迫る手立てを検証する場であるという認識がまだなく、今思うと恥ずかしい限りです。

石狩管内での勤務の間には、千歳大会、北広島大会、石狩大会で計画・運営業務に携わる機会を得ました。つくる側に立ってあらためて苦労や大変さに気づかされるとともに、造形教育

に関わる方々の熱意もひしひしと感じました。造形教育の魅力は「子どもたちが、自分の答えを自分で出せる」ことであり、行為を通じて、感じたことや想いを素朴に表せることです。そして、伝え合うことで豊かな気持ちや互いに育み合う働きも持っています。私たちはそれを肌で知っているからこそ、強く引きつけられてやまないのだと思います。私たち一人一人は小さな点ですが、繋がり合うことで線になり面になり、意思ある形をなすことができます。

今の状況下、できることは限られています。しかし、造形教育の可能性や役割を今一度見つける、熱意と意思を紡いでいくために尽力されている連盟の皆様と共に頑張りたいと思います。



『教育版画の地』

オホーツクから』

遠軽町立東小学校

校長 里 見 貴 史

(元オホーツク造形教育連盟委員長)

今年も湧別町立豊美小学校の版画カレンダーが届きました。全児童一〇名による、「かるた大会」や「参観日」、「修学旅行」など、この一年の様子を生き生きと木版にした学校行事カレンダーです。

私が生まれ、学び、働いてきたここオホーツクの地は、絵本「しまふくろうのみずうみ」の作者、手島圭三郎氏をはじめ、香川軍男氏、影川弘道氏らが活躍した版画文化の地です。

また、昭和四十年代中頃には、佐藤将寛氏の指導による東藻琴村(現大空町)明生小学校(S五十二年廃校)の児童による版画童話「キタキツネ物語」、「キムンカムイの祈り」や、同村の山園小中学校の「版画カレンダー」の取組は、平成十二年に閉校になるまで三十年間受け継がれ、全国的に脚光を浴びました。言うなればオホーツクは教育版画の地でもあるのです。

最近では残念ながら、限られた教科時数での準備・片づけの大変さや、プリンターの一般普及により、版画を削減したという学校もあるようです。

しかし、版画の魅力である、白と黒の明快な表現、質感の面白さ、用紙をめくった時に見える

る完成への期待、繰り返しの面白さなどは現代の子どもでも十分に感じ取ってくれるはずだ。

コロナ禍ではありますが、本校もこの年末、版木に顔を近づけ黙々彫る姿、軽快なバレンの擦り音、刷り上がった時の子ども達の歓声が学校風物詩のように展開され、個性豊かな版画作品が教室前廊下に掲示されました。

いつの時代にも、有事下にまず軽視されるのが文化芸術であります。その時代の人々を励まし、癒し、乗り越える原動力の一つとなってきたのも文化芸術です。

北海道造形教育連盟創立七十周年の節目にあたり、その意義を分かち合い、今後の貴連盟の発展と、道内各校の図工・美術科の一層の充実を願っています。



『造形教育研究大会』

井熱 井繫ぐ』

本別町立勇足中学校

村 中 鉄 也

(十勝造形サークル 事務局長)

どう授業をしたらよいのか。正解が見えないまま勢いだけで進めていた駆け出しの頃、年一回の全道造形教育研究大会に行くのがとても楽しみでした。カメラ小僧のように会場の校内展示を撮りため、新鮮な課題の数々や定番の課題をどう深めていくのか、たくさん公開授業を参観しレジメもかき集めました。そんな授業のヒントや引き出しが増えることがとてもうれしく、研究大会の存在がありがたかったです。また、ネットワーク会議などを通して、各地区サークルの先生方とも情報交換できたことも心強かったです。

初任校で勉強を深めていたそんな折、帯広十勝で研究大会が行われることになり、公開授業をする機会に恵まれました。内容は、美術館で棟方志功の巨大な版画を鑑賞する授業です。素晴らしい作品を目の前にしたら、子どもたちは、自ずと作品の本質に迫る発言が出るはずだと考えていました。研究会やサークルの先生方と指導案検討も何度も重ね、準備万端の気持ちで迎えた当日、公開授業はシナリオ通りにはならず、予想以上に自由でユニークな発言に翻弄されてしまいました。またそこを軌道修正すべく要所々々

のモチーフの解説やヒントを出し、子どもたちの発言を誘導した形になったので、良識的な解釈を言われた感が強めにでた残念な鑑賞になってしまいました。事後の討議では、他地区の先輩から、「自由な発言は、子どもが作品から感じて出た言葉だから、その子の発想を大切にしつつ、他の子どもたちの発言とつなげるようにしていくと、子どもたちの目を通した鑑賞になるよ。」と、とても具体的にアドバイスをいただきました。解説書のような内容が鑑賞の正解のど真ん中だとイメージしていた当時の私にとって、自由な解釈だつていいんだと目からうろこでした。その言葉はいまでも宝物のように心に刻み、授業をしています。価値観が変わるようなアドバイスや討議が聞ける研究大会つて、とても貴重な機会だと思っています。

失敗が大きな気づきとなった研究大会でしたが、何度も参加していると、目的が授業のヒントを得ることだけではなくなってきました。大きな目的のひとつ、それは熱です。授業者や提言者の方々が造形教育に掛ける情熱にあやかり、自分もずっと熱くいつづけたい。そんな思いで毎年の大会やネットワーク会議など、全道造形連盟の集まりに参加しています。今年度の大会は中止になってしまいましたが、二〇二二年度には、再び帯広十勝で研究大会があります。コロナ禍や学習指導要領改正など、大きな変化に伴う苦労は、事を成す時の強い結束力と原動力に変えることができると信じています。またここから、熱を発信できる下支えに少しでもなりたいとの思いを秘め、たくさんの仲間と共に造形の研究を深め、七十周年から次の十年へ、熱を繋げていきたいと思っています。

『おもいをつなぐ造形活動』

帯広市立西陵中学校

梅津美香

(帯広市教育研究会図工美術部会 事務局長)

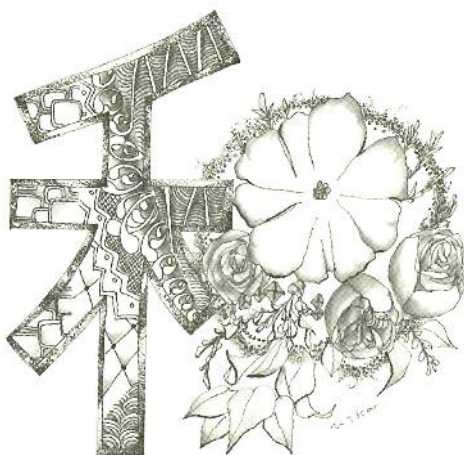
今年度は創立〇周年とか、第〇回記念展とか、周年、記念展を迎えたものが数多くある。終戦から〇年を機に、何か新しいことを始めようとした諸先輩達の熱い思いが感じられる年になった。

この原稿を書いているのは十二月二十日。

帯広では、数日前の十六日に「第五十回帯広市小中学校造形展」を終了することができた。

八月まで全ての展覧会が開催されないという状況の中、はたしてどのような準備をしたら良いのか？本当に開催して良いのか？できるのか？始まってからも果たしてこれで良いのか？と疑問符だらけながらも、多くの方の支援を得、五日間の会期を無事終了することができた。出品数は一五一〇点。感染症対策で、例年より展示スペースを減らさざるをえなかった。それでも入場者数は一五九四名。多くの皆さんに楽しんでいただいた。子どもたちの作品の前で楽しんで話すご家族。お孫さんの作品を見に来たおじいちゃん、おばあちゃん。そこには子どもの成長を喜ぶ温かい心があつた。

子どもの表現って何だろうと思うことがある。



うまくできたら、それはそれで嬉しいけれど、一生懸命さや楽しさが表われていることが、その子の成長を見守る大人達にとって何より嬉しいことなのではないか？作品つてそういうものが表われて、見る人に伝えることができるものだ、毎年この会場で思う。

最終日、終了一時間前のこと。自分の作品を見つけた女の子が、お母さんの手を引いて、猛ダッシュで走って行った。朝顔の絵のその前で、お母さんに向かって恥ずかしそうに笑っていた。そういう姿を見ると、造るっていいなあ、って本当に思う。

作品は子どもからもらうプレゼント。有り難いと思ひ造るそばに寄り添っていきたい。

資 料

令和2年度 北海道造形教育連盟 本部役員・事務局・各部長、副部長

本部役員（札幌市勤務）

役名	氏名	勤務校	学校住所	学校電話
会長	森長 弘美	札幌市立宮の森中学校 長	064-0951 札幌市中央区宮の森1条16丁目5-1	011-612-1147
副会長	谷口 光伸	札幌市立乙部町立乙部小学校 長	043-0103 乙部町緑町641-1	0139-62-2021
	佐藤 正行	札幌市立西岡南小学校 長	062-0034 札幌市豊平区西岡4条12丁目7-1	011-582-6350
	服部 和樹	豊頃町立豊頃中学校 長	089-5253 豊頃町中央若葉町11	0155-74-2427
	山口 浩	恵庭市立柏小学校 長	061-1425 恵庭市文京町3丁目3-3	0123-32-3579
	吉中 博道	美瑛町立美馬牛小学校 長	071-0462 美瑛町美馬牛南2丁目2-58	0166-95-2113
監査	木村 麻岐	函館市立五稜郭中学校	041-0811 函館市富岡町1丁目18-2	0138-41-1332
	福島 祥郎	札幌市立あやめ野中学校 長	062-0053 札幌市豊平区月寒東3条11丁目15-1	011-856-1234
事務局長	東 尚典	札幌市立福住小学校 長	062-0043 札幌市豊平区福住3条5丁目1-1	011-854-1318
会計	福島由紀子	札幌市立大倉山小学校 頭	064-0953 札幌市中央区宮の森3条13丁目6-20	011-644-3984
会計次長	櫻田 悟	札幌市立盤溪小学校 頭	064-0945 札幌市中央区盤溪226-4	011-642-3223

事務局

役名	氏名	勤務校	学校住所	学校電話
次長(研究担当)	湯浅 大吾	札幌市立鴻城小学校	002-8073 札幌市北区あいの里3条6丁目2-1	011-770-5151
"	堀口 基一	北海道教育大学附属札幌小学校 副	002-8075 札幌市北区あいの里5条3丁目1-10	011-778-0471
"(教美展担当)	池田 武彦	札幌市立南白石小学校	003-0022 札幌市白石区南郷通2丁目南6-35	011-863-0701
"	八田 博之	札幌市立光陽小学校 頭	001-0905 札幌市北区新琴似5条11丁目4-1	011-761-2521
"(冲学・音技担当)	平井 歩	札幌市立月寒中学校 頭	062-0052 札幌市豊平区月寒東2条2丁目4-54	011-851-8158
"	寺田 実	札幌市立札幌中学校 頭	007-0868 札幌市東区伏古8条1丁目1-28	011-781-2221

各部長、副部長

役名	氏名	勤務校	学校住所	学校電話
庶務部長	森 久根	札幌市立西野小学校	063-0038 札幌市西区西野8条4丁目4-1	011-662-5811
副部長	内海 美香	札幌市立真栄小学校	004-0811 札幌市清田区美しが丘1条1丁目1-10	011-882-7925
広報部長	黒川 友理	札幌市立栄西小学校	007-0839 札幌市東区北39条東4丁目1-1	011-751-1852
副部長	篠原 貴	札幌市立桑園小学校	060-0008 札幌市中央区北8条西17丁目	011-611-4211
副部長(HIP担当)	小林 知広	札幌市立手稲山口小学校	006-0841 札幌市手稲区曙11条2丁目7-1	011-682-8167
研究部長	中村 珠世	北海道教育大学附属札幌小学校	002-8075 札幌市北区あいの里5条3丁目1-10	011-778-0471
副部長(研究部門)	菊地 惟史	札幌市立円山小学校	064-0821 札幌市中央区北1条西25丁目1-8	011-631-3437
"(NW部門)	館内 徹	札幌市立西岡中学校	062-0033 札幌市豊平区西岡3条12丁目1-1	011-583-3560
"(研修部門)	石川 早苗	札幌市立啓明中学校	064-0809 札幌市中央区南9条西22丁目2-1	011-561-4168
"(教美展部門)	渡邊 千晴	札幌市立中沼小学校	007-0890 札幌市東区中沼町73番地10	011-791-0031

本部常任委員（札造連運営委員）

役名	氏名	勤務校	学校住所	学校電話
会長	勝田 真塩	札幌市立伏見中学校 長	064-0916 札幌市中央区南16条西17丁目1-35	011-561-0218
副会長	金子 睦	札幌市立藤野中学校 長	061-2285 札幌市南区藤野5条6丁目3-1	011-592-1921
"	伊藤 聡美	札幌市立新琴似西小学校 長	011-0911 札幌市北区新琴似11条15丁目1-5	011-762-1127
"	福島 祥郎	札幌市立あやめ野中学校 長	062-0053 札幌市豊平区月寒東3条11丁目15-1	011-856-1234
"	安田 仁昭	札幌市立北野台中学校 長	004-0864 札幌市清田区北野4条4丁目13-1	011-882-7915
"	木原 英俊	札幌市立厚別北中学校 長	004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌774-5	011-895-7461
"	花輪 大輔	北海道教育大学札幌校 准	002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1-5	011-778-0968
事務局長	石垣あけみ	札幌市立前田小学校 長	006-0816 札幌市手稲区前田6条11丁目3-1	011-683-3749
会計監査	富波 修	札幌市立あいの里西小学校 長	002-8072 札幌市北区あいの里2条3丁目9-1	011-778-2130
"	岩崎 重明	札幌市立平岸小学校 頭	062-0932 札幌市豊平区平岸2条14丁目1-28	011-811-8128
総務・ネットワーク 次長(事業・広報)	森實 祐里	札幌市立大倉山小学校	064-0953 札幌市中央区宮の森3条13丁目6-20	011-644-3984
次長(会計・庶務)	沼崎 和典	札幌市立陵北中学校	063-0802 札幌市西区二十四軒2条3丁目1-3	011-621-1225
	山 薫	札幌市立真栄小学校	004-0811 札幌市清田区美しが丘1条1丁目1-10	011-882-7925
研究部長	十亀 健	札幌市立伏見小学校	064-0918 札幌市中央区南18条西15丁目1-1	011-551-2771
ネットワーク部長	欠野 宜利	札幌市立ノホロの丘小学校	004-0032 札幌市厚別区上野幌2条4丁目5-1	011-893-5055
事業部長	本多 隼人	札幌市立北の沢小学校	005-0832 札幌市南区北ノ沢1727番地5	011-571-9620
広報部長	菊地 惟史	札幌市立円山小学校	064-0821 札幌市中央区北1条西25丁目1-8	011-631-3437
会計部長	吉伊 宏子	札幌市立西小学校	063-0827 札幌市西区発寒7条13丁目2-1	011-662-5227
庶務部長	藤岡 真弓	札幌市立手稲宮丘小学校	063-0053 札幌市西区宮の沢3条2丁目1-1	011-661-7393
事務局 副校長顧問	大高 雅子	札幌市立開成中等教育学校 副	065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1	011-788-6987
" 教頭顧問	本間 真理	札幌市立稲積小学校 頭	006-0815 札幌市手稲区前田5条7丁目1-1	011-685-3871

本部常任委員（常任委員）

氏名	勤務校	学校住所	学校電話
小林 充裕	札幌市立東白石小学校	003-0026 札幌市白石区本通14丁目南6-1	011-864-0480
松本 和彦	札幌市立新琴似南小学校	001-0901 札幌市北区新琴似1条3丁目1-1	011-762-3274
川島 正夫	札幌市立手稲宮丘小学校	063-0053 札幌市西区宮の沢3条2丁目1-1	011-661-7393
箭内 浩之	札幌市立南小学校	005-0031 札幌市南区南31条西9丁目2-1	011-581-0188
市川 雅基	札幌市立新陵中学校	006-0805 札幌市手稲区新発寒5条4丁目4-1	011-684-6333
水野 一英	札幌市立札幌平岸高等学校	062-0935 札幌市豊平区平岸5条18丁目	011-812-2010

各地区サークル（地区代表・地区委員・ネットワーク担当者）

札幌ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
札幌市造形教育連盟	会長	勝田 真塩	札幌市	札幌市立伏見中学校（校長）
	事務局長	石垣あけみ	札幌市	札幌市立前田小学校（校長）
	NW担当	矢野 宜利	札幌市	札幌市立ノホロの丘小学校（教諭）

道央ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
石狩造形教育連盟	委員長	山口 浩	恵庭市	恵庭市立柏小学校（校長）
	事務局長	岩崎 愛彦	北広島市	北広島市立双葉小学校（教頭）
	NW担当	竹田 睦生	江別市	江別市立野幌若葉小学校（教諭）

道央ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
空知美術教育研究会	会長	中澤 孝仁	岩見沢市	岩見沢市立中央小学校（主幹教諭）
	事務局長	遠藤 孝之	赤平市	赤平市立赤間小学校（教諭）
	NW担当研究部長	桔梗智恵美	芦別市	芦別市立芦別小学校（教諭）

道央ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
後志教育研究会図工美術部会	部会長	嶋影 哲弥	小樽市	小樽市立奥沢小学校（主幹教諭）

道北ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
上川造形教育研究会	会長	吉中 博道	美瑛町	美瑛町立美馬牛小学校（校長）
	事務局長研究部長	藤原 賢	富良野市	富良野市立富良野西中学校（教諭）
	NW担当	庄子 展弘	上富良野町	上富良野町立上富良野中学校（教諭）

道北ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
旭川市教育研究会図工美術研究部	委員長	成田 慎司	旭川市	旭川市立明星中学校（教諭）
	事務局長	佐藤 賢一	旭川市	旭川市立近文第一小学校（教諭）
	NW担当	西村 徳清	旭川市	旭川市立神居中学校（教諭）

道北ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
留萌地方美術教育研究会	会長	滝本 都子	留萌市	留萌市立東光小学校（教頭）
	事務局長	小澤なつき	留萌市	留萌市立留萌小学校（教諭）
	NW担当研究部長	米澤 卓也	増毛町	増毛町立増毛中学校（教諭）

道北ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
宗谷造形教育研究会	会長	中野 悟	稚内市	稚内市立富磯小学校（校長）
	事務局長NW担当	遠藤 大輔	礼文町	礼文町立船泊中学校（教諭）
	研究部長	松尾 道行	稚内市	稚内市立稚内南中学校（教諭）

道南ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
渡島美術教育研究会	会長	船橋 恭二	知内町	知内町立涌元小学校 (校長)
	幹事長NW担当	高島 純	森町	森町立森中学校 (教諭)
	研究部長	藤本 大介	北斗市	北斗市立上磯中学校 (教諭)

道南ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
函館市美術教育研究会	会長	仲井 靖典	函館市	函館市立本通中学校 (校長)
	(筆頭幹事) 事務局長	後藤 征秀	函館市	函館市立亀田中学校 (教諭)
	研究部長	木村 麻岐	函館市	函館市立五稜郭中学校 (教諭)
	NW担当	進藤 宏美	函館市	函館市立中部小学校 (教諭)

道南ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
檜山造形教育研究会	会長	谷口 光伸	乙部町	乙部町立乙部小学校 (校長)
	事務局長研究部長	吉川 聖	江差町	江差町立南が丘小学校 (校長)
	NW担当	齋藤 裕奈	江差町	江差町立南が丘小学校 (教諭)

道南ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
室蘭市教育研究会造形部	部長	佐々木有美子	室蘭市	室蘭市立蘭北小学校 (教諭)

道南ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
苫小牧市教育研究会造形研究部会	部会長	三和 瑞紀	苫小牧市	苫小牧市立拓進小学校 (教諭)

道南ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
日高造形教育研究会	会長	神成 浩	新ひだか町	新ひだか町立静内中学校 (校長)
	事務局長NW担当	中村 里美	新ひだか町	新ひだか町立静内中学校 (教諭)
	研究部長	長嶋ますみ	日高町	日高町立富川中学校 (教諭)

道東ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
十勝造形サークル	委員長	服部 和樹	豊頃町	豊頃町立豊頃中学校 (校長)
	事務局長	村中 鉄也	本別町	本別町立勇足中学校 (教諭)
	NW担当	松岡奈々美	上士幌町	上士幌町立上士幌中学校 (教諭)
		斉藤 卓	池田町	池田町立池田中学校 (教諭)

道東ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
帯広市教育研究会図工美術部会	部長	黒田 正則	帯広市	帯広市立川西中学校 (校長)
	事務局長NW担当	梅津 美香	帯広市	帯広市立西陵中学校 (教諭)

道東ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
釧路造形教育研究会	会長	佐々木 幸	釧路市	北海道教育大学釧路校 (教授)
	事務局長	小濱 道子	釧路市	釧路市立武佐小学校 (教諭)
	研究部長NW担当	更科 結希	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校 (教諭)

道東ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
オホーツク造形教育連盟	委員長	小野寺哲浩	斜里町	斜里町立知床ウトロ学校 (校長)
	事務局長	玉造 至	湧別町	湧別町立上湧別小学校 (教頭)
	NW担当研究部長	赤岩 穂清	滝上町	滝上町立滝上小学校 (教諭)

道東ブロック	役名	氏名	市町村	勤務校
根室造形教育連盟	委員長	外川 篤司	標津町	標津町立標津中学校 (教諭)
	事務局長	安井加奈子	別海町	別海町立中春別中学校 (教諭)
	NW担当	仲 悠輔	別海町	別海町立別海中央中学校 (教諭)

本部顧問

氏名	居住地
阿部 賢一	北見市
阿部 宏行	札幌市
阿部 時彦	札幌市
池田 元治	江別市
石井 久	函館市
石割 章浩	帯広市
伊藤 英明	札幌市
伊藤 正敏	札幌市
稲實 順	札幌市
岡澤 邦彦	札幌市
小野三枝子	釧路市
加藤 雅子	札幌市
金井 秀男	札幌市
桑田 正博	江別市
今 裕子	札幌市
近藤 貢	函館市
齊藤 隆博	帯広市
佐藤吉五郎	札幌市

氏名	居住地
佐藤 靖	札幌市
櫻田 豊	札幌市
芝木 秀昭	札幌市
島田 茂	札幌市
庄 栄一	札幌市
白井 園毅	江別市
菅原 清貴	札幌市
菅原 良和	旭川市
角力山 旭	札幌市
関 建治	恵庭市
武田 誠	七飯町
多田 紘一	札幌市
塚野 昭臣	札幌市
土谷 敬	函館市
寺嶋 文憲	札幌市
寺本 吉明	芽室町
伝住 修一	江別市
土井 勝典	石狩市

氏名	居住地
土井 善範	札幌市
富田 賢司	札幌市
富田 泰	札幌市
墓田 充泰	札幌市
橋詰 博	札幌市
早弓 弘行	滝川市
藤井 正治	江別市
藤森 久美	札幌市
松島 輝男	札幌市
三谷 哲司	札幌市
三井 哲	札幌市
村瀬 千檉	札幌市
安木 尚博	札幌市
山口 長伸	別海町
山田 浩人	江別市
吉田 倭雄	札幌市
米谷 哲夫	札幌市
若竹 隆邦	函館市

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道の造形教育の振興を図るをもって目的とする

2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う

- ①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
- ②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- ③会報の発行
- ④他の造形教育団体との連絡提携
- ⑤その他、本連盟の目的達成に必要と認められる事項

3. 会員

会 員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組織

地区サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する
本 部 本連盟の本部は、札幌に置く

5. 構成及び任務

①役員

会 長 1 名 本連盟を代表する
副 会 長 若干名 会長を補佐する
会 計 監 査 2 名 会計の監査をする

②委員

地区委員長 地区1名 地区サークルを代表する
地 区 委 員 地区1名 地区サークルの連絡調整にあたる
(地区委員は、地区委員長を兼務してもかまわない)

常 任 委 員 若干名 会長が委嘱し、本連盟の運営に当たる

顧 問 連盟の重要な問題につき意見を述べる

③部 長 各部推進の要として常任委員より会長が委嘱し、会務の分掌及び執行にあたる

6. 選 任

会長、副会長、会計監査は委員総会で選出する

地区委員長及び地区委員は、地区サークルで選出する

常任委員は会長の委嘱による

顧問は委員総会において委嘱する

7. 任 期

役員及び委員の任期は1カ年とする、但し再任を妨げない

8. 会 議

総 会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する

委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する

役員の選出、予算、決算及び事業の年度計画等につき審議する

常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する

役員会 会長、副会長、事務局長、会計により構成し、必要に応じ会の運営について協議する

部長会 本部役員、各部部長により構成し、必要に応じ各部事業等についての連絡調整を行う

9. 会 計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する

会 費 会員は、一人 年額2,000円を納入するものとする

地区サークルは、年額10,000円を納入するものとする

10. 事 務 局

事務局は事務局長在勤の学校に置く

事務局長は常任委員中より会長が委嘱する

事務局には必要に応じて各部を設け、業務を分担する

事務局に事務局次長、会計担当を置く

11. 年 度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

規約の改廃に当たっては特別委員会（規約改正委員会）を設け、規約改正案を総会に提出する
本規約の改廃は委員総会の決議による

(平成6年4月29日改訂)

(平成19年4月28日改訂)

(平成21年4月総会にて改訂)

◆七十周年記念誌「心つなぐ造形」の発刊にあたって

新型コロナウイルスが世界中で猛威を奮いはじめて早一年余りが過ぎました。未曾有の事態に世界が翻弄され、我々教育界も甚大な影響を受けました。

当然のごとく、北海道造形教育連盟の令和二年度の活動にもコロナウイルスが大きな影を落としました。第一回から一度も途切れることなく毎年開催されてきた「全道造形教育研究大会」、「北海道教育美術展」の二大事業を中止せざるを得なかったことはまさに断腸の思いでした。また、本来であれば、これまでの足跡を振り返りながら多くの会員で祝うはずであった連盟創立七十周年ですが、その機会もコロナウイルス感染拡大予防のため失われてしまいました。そのため、本記念誌が、北海道造形教育連盟七十年の証を後世に引継ぐ唯一の事業となりました。

コロナ禍で我々の生活は一変し、感染を防ぐため人と人との関わりが思うようにできない状況となっています。しかし、そのことは私達に、「人と人とが関わること、人間同士の結びつきがかけがえのないものであること」を再認識させました。

今回、記念誌発行にあたり、これまで全道各地で共に活動したり、本連盟を支えてきたりしてくださった先輩方、同輩の方々からたくさんメッセー지를いただきました。読ませていただくと、皆さんが教員としてご自身の実践を磨くため、そして、勤務する学校、地域、ひいては本道の造形教育の充実と発展を目指して、「人との出会い」と「共に学び歩む」ことを大切に、それぞれのサークルや全道の仲間と活動してきた姿が、それぞれの思い出とともに語られています。

この記念誌を通して、全道の会員にその思いを届け共有することができたら、これほどうれしいことはありません。そして近い将来、この困難な状況を乗り越えて、また、全道の仲間が集い、「子どもたちの豊かな感性をいかに育んでいくか」、熱く語り合い、造形教育の価値をつなぎ広めていく取組が復活できることを願っております。

おしまいになります。本記念誌の発行に御支援、御協力をいただいた全ての皆様に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。



北海道造形教育連盟創立70周年記念誌

「心つなぐ造形」

発行者 北海道造形教育連盟
代表 会長 森長 弘美
事務局 札幌市立福住小学校
事務局長 東 尚典
TEL 011-854-1318
FAX 011-854-1428

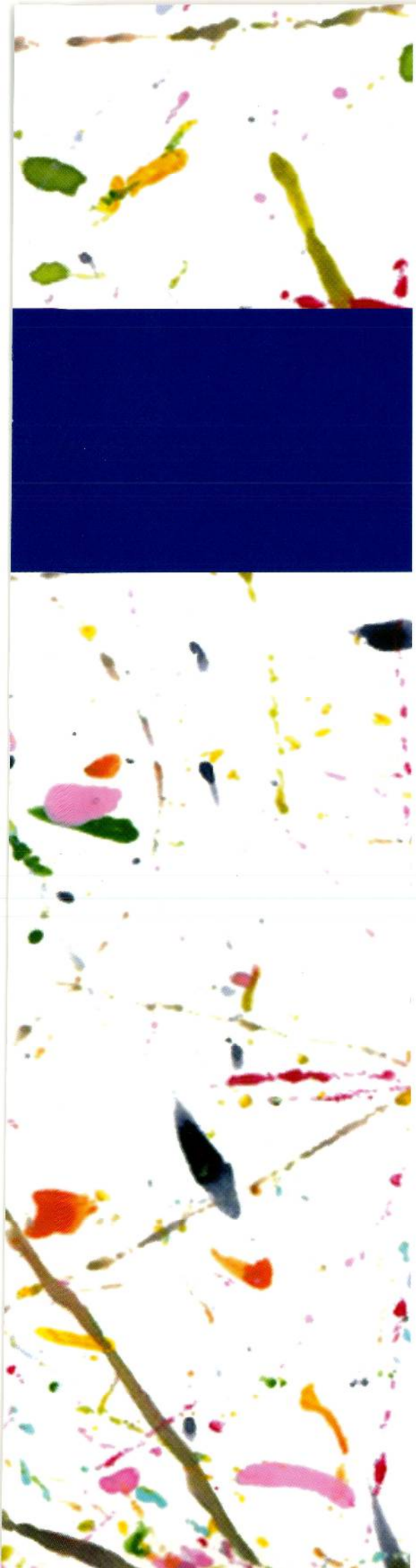
表紙デザイン
阿部 宏行 (札幌大学)

—連盟創立70周年事業推進委員会—

堀口 基一 (北海道教育大学附属札幌小学校)
箭内 浩之 (札幌市立南小学校)
小林 充裕 (札幌市立東白石小学校)
松本 和彦 (札幌市立新琴似南小学校)
湯浅 大吾 (札幌市立鴻城小学校)
小林 知広 (札幌市立手稲山口小学校)
東 尚典 (札幌市立福住小学校)

印刷・製本

小南印刷株式会社
札幌市中央区北9条西23丁目
TEL (011-641-5373)



発行 2021.3.31